

島しょ地域の認知症対応力向上に向けた支援事業

令和 4 年度事業実施報告書

令和 5 年 3 月

東京都健康長寿医療センター 認知症支援推進センター

センター長 井藤佳恵

目次

1	事業実施の背景と目的	1
1.1	目的	1
1.2	事業の実施に至る経緯	1
1.2.1	当時の状況	1
1.2.2	当時の課題	1
1.3	本事業の内容	2
2	各島における事業実施状況	4
2.1	八丈町における事業実施状況	4
2.1.1	訪問人員	4
2.1.2	日程	4
2.1.3	事業実施状況	4
2.2	小笠原村における事業実施状況	13
2.2.1	訪問人員	13
2.2.2	日程	13
2.2.3	事業実施状況	13
2.3	神津島村における事業実施状況	21
2.3.1	訪問人員	21
2.3.2	日程	21
2.3.3	事業実施状況	21
2.4	三宅村における事業実施状況	26
2.4.1	訪問人員	26
2.4.2	日程	26
2.4.3	事業実施状況	26

3	各島で実施した研修の質の評価	30
3.1	八丈町で実施した研修の質の評価.....	30
3.1.1	研修①「認知症とともに生きるために」	30
3.1.2	研修②「DASC 研修」	34
3.1.3	研修③「高齢者の精神疾患・せん妄ケア」	36
3.1.4	研修④「集団療法」	39
3.1.5	研修⑤「認知症予防と備え」	42
3.1.6	研修⑥「認知症の基礎～応用、精神症状等」	46
3.1.7	研修⑦「介護者の心理と介護うつ予防」	49
3.2	小笠原村で実施した研修の質の評価.....	54
3.2.1	研修①「認知症基礎講座」	54
3.2.2	研修②「認知症予防と備え」	56
3.2.3	研修③「集団療法のススメ方」	59
3.2.4	研修④「認知症とともに生きるために」	62
3.2.5	研修⑤「高齢者の精神疾患について」	64
3.3	神津島村で実施した研修の質の評価.....	67
3.3.1	研修①「高齢者の精神疾患について」	67
3.3.2	研修②「認知症予防と備え」	70
3.4	三宅村で実施した研修の質の評価.....	73
3.4.1	研修「知って安心認知症～家族が認知症になったら～」	73
4	島しょ地域認知症医療サポート事業の実施	77
4.1	目的.....	77
4.2	認知症の診断および治療等に関わる相談支援.....	77
4.2.1	事業概要	77

4.2.2	事業の実施.....	77
4.3	認知症初期集中支援チームの活動支援	78
4.3.1	事業概要	78
4.3.2	事業の実施.....	78
5	考察.....	81

1 事業実施の背景と目的

1.1 目的

本事業の目的は、東京都の島しょおよび中山間地域（以下、島しょ等地域）において、認知症の人と家族を支える体制作りを進めるために、医師・看護師等の医療職、地域包括支援センター職員、介護職、行政職員等に対する研修を実施するとともに、島しょ等地域における認知症対応力の向上を図るための方策を検討することにある。

1.2 事業の実施に至る経緯

平成 26 年 1 月 8 日に、島しょ等地域の認知症の人と家族を支える体制の「現状と課題」について、東京都福祉保健局より、以下のような情報を得た。

1.2.1 当時の状況

島しょ地域の人口は 27803 人、うち高齢者人口は 8536 人で高齢化率は 30.7%であり、東京都全域での高齢化率約 21%を大きく上回っている。また、高齢者における認知症有病率 15%を用いて推計すると、約 1280 人が認知症の症状を有していると考えられる。

都は現在、島しょ保健医療圏域を除く 12 の二次保健医療圏に認知症疾患医療センターを整備しているが、島しょ地域については未指定である。

島しょ地域の役場職員や地域包括支援センター職員、島しょ地域の認知症対応力向上に向けて、何らかの対策を講じるよう要望があがっている。

1.2.2 当時の課題

八丈町役場、大島町役場、島しょ保健所の職員を対象としたヒアリングを行った。その結果、島しょ地域には以下の課題があることがわかった。

(1) 医療資源の不足

島しょ地域において、精神科医師が常駐している医療機関はなく、本土の精神科医師が週に 1 日程度来島し診療を行っている。近年、統合失調症などを含めた精神疾患患者が増

加傾向にあり、認知症も含めて精神科の需要が増加しているが、診療枠を増やすことは財政的にも人員確保の面からも厳しい状況である。

来島している精神科医師は必ずしも認知症を含め老年精神医学が専門分野ではないことや、医療機関に備えている機器等も少ないため、個々の患者の認知症の症状に対応した適切なケア及び診療が行えていない。

一般に、認知症の行動・心理症状が目立つ場合には、入院して精神科医師による薬物療法を行い、適切なケアを実施することにより、症状を緩和させることが選択肢となるが、島しょ地域においては医療資源が不足していて難しいため、本土に入院先を探すこととなる。

(2) 研修機会の不足

①**役場職員**：役場に認知症施策担当職員を配置している島はなく、ほとんどの島が高齢福祉行政について1つの課で対応しているため、十分な認知症施策を推進できているとは言えない。また、認知症に関する知識を学ぶ機会も少ないため、政策を進める上での障壁となっている。

②**医師**：常勤の内科医は島に1人もしくは2人であるため、通常業務が多忙である。また、地理的条件からも、本土で開催する認知症サポート医研修なども受講できず、認知症医療の知識の底上げが図れない。

③**介護職**：介護現場でも、通常業務が多忙である等の理由から、本土で開催される認知症研修などを受講できない。個々の利用者の症状に応じた適切なケアを知る機会がなく、相談できる窓口もないため、緊急時や判断に困った際には手探りで対応している。

1.3 本事業の内容

上記の情報を踏まえ、平成25年度から東京都健康長寿医療センター認知症支援推進センターと認知症疾患医療センターが協力し、島しょ等地域の全町村に対して研修と調査を実施している。令和4年度は八丈町、小笠原村、神津島村の3町村を訪問して事業を実施した。また、三宅村の独自の認知症対策事業の一環で開催された一般住民向け研修に対し、認知症疾患医療センター職員を講師として派遣した。本報告書ではこれらの受託事業の実施状況報告も行う。

事業の内容は次のとおりである。

(1) 訪問の調整

- ・各島の認知症支援に係る基本情報の収集。
- ・東京都および各島の高齢福祉主管課の本事業担当者と調整の上、各島を訪問するための日程調整、研修等の事業実施内容の検討と調整。

(2) 研修会の実施

- ・各島において医療・介護等専門職を対象とする研修会を開催
- ・要望に応じて一般住民に対する研修会を開催。
- ・要望に応じて専門職および一般住民を対象とする相談会を開催。
- ・要望に応じて認知症初期集中支援チーム員テストを実施。
- ・研修内容の質の評価

(3) 各島における今後の認知症支援体制づくりのあり方の検討

- (4) ・基礎資料を得ることを目的に、認知症支援に係る関係者による関係者ミーティング（フォーカス・グループ・ディスカッション：FGD）を実施。
- ・関係者ミーティングの発言内容の質的分析による支援方策の立案。

令和2年2月に始まったCOVID-19の世界的な流行の後、令和2・3年度は島しょ地域の訪問を控えオンラインで事業を実施していたが、令和4年度より訪島を再開した。

2 各島における事業実施状況

2.1 八丈町における事業実施状況

2.1.1 訪問人員

役職名	職種	氏名
精神科	医師	大森 佑貴
精神科	公認心理師	扇澤 史子
認知症疾患医療センター 主任	精神保健福祉士	齋藤 久美子
認知症疾患医療センター	精神保健福祉士	小林 優子

2.1.2 日程

令和4年10月18日（火）～10月20日（木）

2.1.3 事業実施状況

八丈町の事業実施スケジュールは以下の表の通りである。

月日	時間	用務	会場
10月18日	7:30	羽田空港発	
	8:25	八丈島空港着	
	10:00	研修①：認知症とともに生きるために 居宅支援事業所・地域包括支援センター	町役場商工会研修室
	11:15	座談会	
	12:45	昼休憩	
	14:30	研修②：DASC研修	町役場商工会研修室
	17:00	研修③：高齢者の精神疾患・せん妄ケア 研修④：集団療法	
10月19日	9:30	研修⑤：認知症予防と備え	町役場商工会研修室
	10:45	相談会①：認知症よろず相談会	
	12:00	昼休憩	
	14:00	訪問介護事業者 座談会	町役場商工会研修室
	16:00	相談会②：養和会職員向け研修（主任・リーダー）個別相談	養和会
	18:00	研修⑥：養和会職員向け研修 認知症の基礎～応用、精神症状等	
10月20日	9:30	研修⑦：介護者の心理と介護うつ予防	町役場商工会研修室
	10:45	相談会③：認知症よろず相談会	
	12:00	昼休憩	
	14:00	関係者ミーティング	第一会議室
	17:25	八丈島空港発	

2.1.3.1 研修会

10月18日から20日にかけて八丈町役場商工会研修室と八丈町役場第一会議室、養和会にて研修会を実施した。

研修①	
実施日	令和4年10月18日
会場	八丈町役場商工会研修室
時間	10:00～11:00
内容	「認知症とともに生きるために」
講師	齋藤久美子
対象	住民・専門職・支援関係者
出席者数	43名



研修②	
実施日	令和4年10月18日
会場	八丈町役場商工会研修室
時間	14:30～16:00
内容	「DASC 研修」
講師	小林優子
対象	専門職・支援関係者
出席者数	9名



研修③	
実施日	令和4年10月18日
会場	八丈町役場第一会議室
時間	17:00～18:00
内容	「高齢者の精神疾患・せん妄ケア」
講師	大森佑貴
対象	専門職
出席者数	14名



研修④	
実施日	令和4年10月18日
会場	八丈町役場第一会議室
時間	18:00～18:30
内容	「集団療法」
講師	扇澤史子
対象	専門職
出席者数	12名



研修⑤	
実施日	令和4年10月19日
会場	八丈町役場商工会研修室
時間	9:30～10:30
内容	「認知症予防と備え」
講師	大森佑貴
対象	住民・専門職・支援関係者
出席者数	33名



研修⑥	
実施日	令和4年10月19日
会場	養和会
時間	18:00～19:30
内容	「認知症の基礎～応用、精神症状等」
講師	大森佑貴
対象	専門職
出席者数	15名



研修⑦	
実施日	令和4年10月20日
会場	八丈町役場商工会研修室
時間	9:30～10:30
内容	「介護者の心理と介護うつ予防」
講師	扇澤史子
対象	住民・専門職
出席者数	29名



2.1.3.2 事例検討会

10月18日と19日に八丈町役場商工会研修室にて事例検討会を実施した。

事例検討会①	
実施日	令和4年10月18日
会場	八丈町役場商工会研修室
時間	11:15～12:30
内容	関係者が集まり、3つの事例検討を行った。
対象	専門職
出席者数	12名

事例1：昼夜逆転しデイサービスの送り出しに難渋している方への対応。

事例2：夜間覚醒し、紙パンツをトイレに詰まらせる問題行動のある高齢男性への対応。

事例3：うつ病と認知症の鑑別についての相談。

事例検討会②	
実施日	令和4年10月19日
会場	八丈町役場商工会研修室
時間	14:00～15:30
内容	関係者が集まり、2つの事例検討を行った。
対象	専門職
出席者数	4名

ヘルパーの人手不足の中、対応に難渋する利用者についての対応が2件。



2.1.3.3 相談会

10月19日と20日に、八丈町役場商工会研修室と養和会にてよろず相談会を開催した。

相談会①	
実施日	令和4年10月19日
対象	住民
会場	八丈町役場商工会研修室
時間	10:45～11:45
相談件数	2件

相談会②	
実施日	令和4年10月19日
対象	専門職
会場	養和会
時間	16:00～17:45
相談件数	1件

相談会③	
実施日	令和4年10月20日
対象	住民
会場	八丈町役場商工会研修室
時間	10:45～11:45
相談件数	1件

2.1.3.4 関係者ミーティング

(1) 会の概要

関係者ミーティング	
実施日	令和4年10月20日
会場	八丈町役場商工会第一会議室
時間	14:00～16:00
出席者数	14名

(2) 参加者の属性

所属	n
病院	2
保健所	1
地域包括支援センター	3
居宅介護支援事業所	3
訪問介護事業所	1
通所介護事業所	1
デイサービス	1
町・村役場	2
合計	14

職種	n
看護師・准看護師	1
ケアマネジャー	1
社会福祉士	1
管理者	4
事務職	4
保健師	1
その他	2
合計	14

(3) 内容

関係者ミーティングで語られた内容は以下の通りである。

1. 独居高齢者の支援について

- ・ 島内の独居高齢者の数は以前と変わらない。
- ・ 島内にキーパーソンがいない独居の認知症高齢者について、内地のキーパーソンから地域包括支援センターに見守り依頼が入ることがある。
- ・ 家族不在ないしは家族が島外にいるために、老老介護世帯のケースが増えている。
- ・ 身寄りのない人が増え、施設等も少ないため、社会的入院を繰り返す患者が多い。

- ・ 現在は、認知症ではない独居高齢者には近所の人が声かけをして何とか生活しているが、やがて認知症になった時の対応が課題である。

2. 関係者や機関の連携について

- ・ コロナ禍の影響で支援関係者の集まる機会が減った。
- ・ 地域連携は取れつつあるが、介護職と医療職との間には壁がある。
- ・ 保健所の保健師は精神科外来の看護師を窓口で精神科の相談をしている。その窓口をきっかけに徐々に話し合える人が広がるとよいのではないか。
- ・ 今年は病院が地域に出て健康診断を行なった。今後も役場と病院が連携し、住民が認知症予防について考えるきっかけ作りをしていきたい。

3. 人材不足と業務の多忙さについて

- ・ 島内の人口減少やサービス事業所の減少により、福祉業界に限らず人材不足。
- ・ ケアマネジャーや民生委員のなり手がおらず、民生委員が不在の地区もある。
- ・ ケアマネジャーに様々な業務が集中しているが、役場も人手不足でケアマネジャーに頼らざるを得ない。
- ・ 担当ケースについて、キーパーソンが不在の場合、放っておくのが心配で、時間外・業務外であっても対応せざるを得ない。
- ・ ヘルパーの利用希望があっても、枠がないため利用できない。
- ・ 訪問介護事業所に次々と依頼が入り、今はなんとか対応しているが今後不安がある。訪問件数を増やしたいが、そうすると事務仕事が回らない。
- ・ スタッフが高齢化し、訪問できる件数が少ない。
- ・ 人手不足により元気な人への対応が後回しになる。
- ・ 余裕や自信がなくても、リーダーの役割を担わなくてはならない。

4. 介護保険外サービスについて

- ・ 自費のサービスは高額のため、年金の中で負担するのが厳しい。

5. 啓発の重要性について

(1) 認知症についての啓発

- ・ 地域の対応力向上のためには住民の理解から広げていくことが必要。地域住民の理解があれば、認知症の方も住みやすくなる。

(2) ACP についての啓発

- ・ 島だからこそ、今後どのように最期を過ごしたいのか（内地で手術等を含む専門医療を受けたいのか、島で最期を過ごしたいのか）、ACP を含めた仕組みを考えたい。

(3) せん妄の知識の普及・啓発

- ・ 入院中、安全管理のため抑制や過鎮静にせざるを得ない状況があるが、せん妄と認知症の違いを意識するだけでも、抑制しなくて済むケースがあるのではないかな。



2.2 小笠原村における事業実施状況

2.2.1 訪問人員

役職名	職種	氏名
精神科部長 認知症疾患医療センター センター長	医師	古田 光
認知症支援推進センター 認知症支援担当係長	精神保健福祉士	畠山 啓
精神科 主任	公認心理師	今村 陽子

2.2.2 日程

令和4年10月25日（火）～10月30日（日）

2.2.3 事業実施状況

小笠原村の事業実施スケジュールは以下の表の通りである。

月日	時間	用務	会場
10月25日	11:00	竹芝出港（おがさわら丸）＜船中泊＞	
10月26日	11:00	父島着	
	14:00	研修①：認知症基礎講座	福祉センター2F 会議室と村民会館会議室
	15:30	関係者ミーティング	福祉センター2F 会議室と母島支所 2F 会議室
	16:30	初期集中支援チーム員テスト	
10月27日	10:00	研修②：認知症予防と備え	村役場 2 階会議室と村民会館会議室
	12:00	昼休憩	
	13:30	相談会①：認知症よろず相談会	村役場 2 階会議室と母島支所 2F
	15:30	研修③：集団療法のススメ方	
10月28日	10:00	研修④：認知症とともに生きるために	福祉センターと村民会館会議室
	11:00	相談会①：認知症よろず相談会	福祉センターと母島支所 2F
	12:00	昼休憩	
	14:00	相談会②：認知症よろず相談会	福祉センターと母島支所 2F
	15:00	研修⑤：高齢者の精神疾患について	
10月29日	9:30	相談会③：認知症よろず相談会	福祉センターと母島支所 2F
	15:00	父島発（おがさわら丸）＜船中泊＞	
10月30日	15:00	竹芝到着	

2.2.3.1 研修会

研修会は、10月26日から29日にかけて父島にて行われ、母島にはテレビ会議システムを結んで同時中継された。

研修①

実施日	令和4年10月26日
会場	福祉センター2階会議室と 村民会館会議室
時間	14:00～15:00
内容	「認知症基礎講座」
講師	古田光
対象	住民
出席者数	10名



研修②

実施日	令和4年10月27日
会場	村役場2階会議室と村民会館会議室
時間	10:00～11:00
内容	「認知症予防と備え」
講師	今村陽子
対象	住民
出席者数	15名

研修③

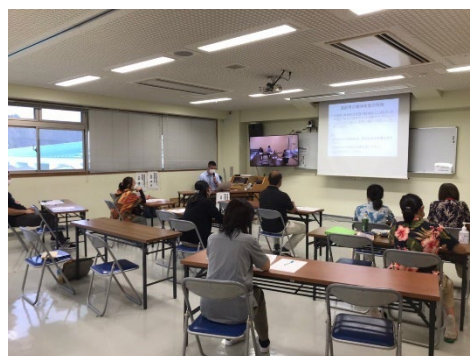
実施日	令和4年10月27日
会場	村役場2階会議室と母島支所2階
時間	15:30～16:30
内容	「集団療法のススメ方」
講師	今村陽子
対象	専門職・支援関係者
出席者数	10名



研修④	
実施日	令和4年10月28日
会場	福祉センターと村民会館会議室
時間	10:00～11:00
内容	「認知症とともに生きるために」
講師	畠山啓
対象	住民
出席者数	11名



研修⑤	
実施日	令和4年10月28日
会場	福祉センターと母島支所2階
時間	15:00～16:00
内容	「高齢者の精神疾患について」
講師	古田光
対象	専門職・支援関係者
出席者数	11名



2.2.3.2 事例検討会

開催されなかった。

2.2.3.3 相談会

10月27日から29日にかけて、父島村役場にてよろず相談会を開催し、母島とはテレビ会議システムで結んで実施した。

相談会①	
実施日	令和4年10月27日
対象	専門職
会場	村役場2階会議室と母島支所2階
時間	11:00～11:45
相談件数	4件

相談会②	
実施日	令和 4 年 10 月 28 日
対象	住民
会場	福祉センターと母島支所 2 階
時間	14:00～14:45
相談件数	1 件

相談会③	
実施日	令和 4 年 10 月 29 日
対象	住民
会場	福祉センターと母島支所 2 階
時間	9:30～10:30
相談件数	1 件

2.2.3.4 関係者ミーティング

(1) 概要

関係者ミーティング	
実施日	令和 4 年 10 月 26 日
会場	福祉センター2 階会議室と母島支所 2 階
時間	15:30～16:30
出席者数	9 名

(2) 参加者の属性

所属	n
診療所	2
町・村役場	6
合計	8

職種	n
看護師・准看護師	2
保健師	3
ケアマネジャー	1
事務職	2
合計	8

(3) 内容

関係者ミーティングの内容は以下の通りである。

1. 気楽に集まれる居場所・通いの場について

- ・ 社会福祉協議会の介護予防体操教室は続いている。（父島）
- ・ 認知症カフェ（ふらっとカフェ）は賑わっており、コミュニケーションを求めている人が多い。新しいメンバーを老人会（父島クラブ）が紹介することもある。（父島）
- ・ 社会福祉協議会の楽々サロンも継続している。（母島）
- ・ “ガジュ下”や“青灯台”のような、インフォーマルな集いの場は現在も継続されている。（父島・母島）

2. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響について

- ・ 高齢者には筋力の衰えがある。
- ・ デイサービスの通所回数が減り、家族介護者の負担が増えた。

3. 地域の力について

- ・ コミュニティーが狭いため、気になる人がいたら早めに把握することができる。
- ・ 診療所では、認知症が疑われる人について、地域の人からの情報によって介入するケースが多い。

4. 人材不足について

- ・ 慢性的な人材不足。専門的知識のある人が足りず、知識のない中でやっており、できることに限りがある。
- ・ 人の入れ替わりが多く、過去の事例が引き継がれない。

5. 潜在化しているハイリスクの人たちについて

- ・ いつの間にか島に住み着いているが住民票がない人、コミュニティから外れている人がいる。何とか生活できているうちはよいが、事例化していくと大変。
- ・ 役場では独居高齢者のリスト化作成はしているが、他の業務もあるため訪問に至っていないのが現状。

6. 認知症初期集中支援チームの活用について

- ・ 個別ケース会議を開く土壌はあるが、現状では初期集中支援チームとして活用されていない。
- ・ 認知症初期集中支援チームの制度やネットワークを活用した取り組みを行えば、もっと早く介入できたのではないかと思うケースがあった。

7. 支援に繋がるまでの道のりについて

- ・ 診療所では認知症が疑われる人がいても本人が診察場面で取り繕っていることも多く、具体的な支援に繋がらない。
- ・ 生活上問題は起きているが、何が原因で起きているか評価が難しい。たとえば、背景に精神疾患がある場合、島では専門での見立てが難しい。
- ・ 小さなコミュニティのため入っていきやすいのは有難いが、認知症が疑われる人を早く察知できても、家族も知られたくないという気配があり、支援に繋がるまでが長い。
- ・ 認知症支援について、相談した先に何があるのかが住民には理解しづらいため、積極的に相談しないのではないかと。今ある制度やサービスを一度整理するとよいかもしれない。

- ・ 独居の男性高齢者はサービスを断ることも多く、どう支援に繋げていくかが難しい。

2.3 神津島村における事業実施状況

2.3.1 訪問人員

役職名	職種	氏名
精神科部長 認知症疾患医療センター センター長	医師	古田 光
認知症支援推進センター 認知症支援担当係長	精神保健福祉士	畠山 啓
精神科	公認心理師	高岡 陽子

2.3.2 日程

令和4年11月16日（水）～11月17日（木）

2.3.3 事業実施状況

神津島村の事業実施スケジュールは以下の表の通りである。

月日	時間	用務	会場
11月16日	11:00	調布空港発	
	11:45	神津島空港着	
	14:15	事例検討会	生きがい健康センター
	16:00	関係者ミーティング	
	17:30	研修①：高齢者の精神疾患について	
11月17日	9:00	研修②：認知症予防と備え	生きがい健康センター
	10:15	認知症よろず相談会	生きがい健康センター
	12:05	神津島空港発	
	12:55	調布空港着	

2.3.3.1 研修会

11月16日と17日に、生きがい健康センターにて研修会を実施した。

研修①	
実施日	令和4年11月16日
会場	生きがい健康センター
時間	17:30～18:30
内容	「高齢者の精神疾患について」
講師	古田光
対象	専門職・支援関係者
出席者数	18名



研修②	
実施日	令和4年11月17日
会場	生きがい健康センター
時間	9:00～10:00
内容	「認知症予防と備え」
講師	高岡陽子
対象	住民
出席者数	16名



2.3.3.2 事例検討会

11月16日に生きがい健康センターにて事例検討会を実施した。

事例検討会	
実施日	令和4年11月16日
会場	生きがい健康センター
時間	14:30～15:45
内容	関係者が集まり、3つの事例検討を行った。
対象	専門職・支援関係者
出席者数	5名



2.3.3.3 関係者ミーティング

(1) 概要

関係者ミーティング	
実施日	令和4年11月16日
会場	生きがい健康センター
時間	16:00～17:30
出席者数	18名



(2) 参加者の属性

所属	n
診療所	2
保健所・保健センター	3
居宅介護支援事業所	1
介護老人福祉施設	4
短期入所生活介護事業所	1
町・村役場	4
社会福祉協議会	1
NPO 法人	2
合計	18

職種	n
医師	1
看護師・准看護師	3
保健師	2
ケアマネージャー	2
介護支援専門員	1
管理者	1
事務職	5
PT(理学療法士)	1
その他	2
合計	18

(3) 内容

関係者ミーティングの内容は以下の通りである。

1. 独居高齢者の支援について

- ・ 核家族化が進み、Uターン者も減り、家族離れが進んでいる。
- ・ 未婚の50～60代が増えており、20年後は身寄りのない独居高齢者となっている可能性がある。
- ・ どのコミュニティにも属さない人は役場や社会福祉協議会が対応する必要がある。しかし、他の住民からは特別扱いしているように思われてしまう。
- ・ 身元引受人がおらず、入院時に役場職員が付き添うケースがあった。このようなケースが今後増えるだろう。
- ・ やすらぎの里は受け入れの限度があるため、内地の施設に紹介してもらうルートを作ってもいいのではないか。
- ・ やすらぎの里、役場、社会福祉協議会以外で支援する体制があるとよい。

2. 連携や見守りについて

- ・ 連携会議や民生会議を通して、課題のある人を把握し地域で見守っている。
- ・ 診療所では、保健センター(保健師や理学療法士)との情報共有が役立っている。
- ・ 住民同士の声掛けにより、ひとり暮らしが難しい人や徘徊している人が把握されやすい。
- ・ 互いに見守り合う文化が強みだが、どのコミュニティにも属さない人の状況は把握されていない。

3. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響について

- ・ やすらぎの里では、面会制限を行い、一時外泊と入浴サービスを停止した。
- ・ コロナ禍でデイサービスへ行けず入浴ができなくなった人がいた。介護保険外の訪問入浴サービスがあるとよい。

- ・ 以前は、自宅で看取らないことについて近所の目があったが、コロナの影響で面会制限や一時外泊停止などがあり、無理に自宅に連れて帰らなくてもよい、自宅で看取れなくても仕方ないという雰囲気が生まれ、自宅外での看取りが増えた。

4. 看取りについて

- ・ 以前は、自宅での看取りが多かったが、最近は内地の施設に入る人が増えた。
- ・ やすらぎの里で看取られる人が増えた。今後は、やすらぎの里だけでは対応が難しい。
- ・ 点滴しながらやすらぎの里で生活ができるようにするなど、やすらぎの里内の医療を充実させたい。しかし、やすらぎの里でどこまで医療を行うか、どこまで看取りができるかは課題も多い。

5. 人材不足について

- ・ 働く側も高齢化が進んでおり、人材獲得が課題である。
- ・ 人材不足だからこそ、介護職でも医療的な知識を身につける必要がある。
- ・ 団塊世代が高齢になった時、現在の体制で支えるのは困難である。在宅サービスの拡充や、前期高齢者や元気な人を働き手にするなど、島全体で体制作りを考える必要がある。

6. 障害者福祉と高齢者福祉について

- ・ 知的障害者が高齢化して認知症になった場合、障害者福祉と高齢者福祉の区別や移行が難しい。
- ・ 障害者の高齢化が進んでいる。知的障害者は、要介護度が上がらず、やすらぎの里に入るのが遅くなる。
- ・ 利用する人たち一人ひとりにどのようなサービスを利用したいのかを聞き取ることが大切である。

2.4 三宅村における事業実施状況

三宅村の独自事業である、認知症対策事業の一環で開催された一般住民向け研修と認知症政策ミーティングに対し東京都健康長寿医療センターの認知症疾患医療センターおよび認知症支援推進センターの職員3名を派遣した。

2.4.1 訪問人員

役職名	職種	氏名
精神科	医師	大森 佑貴
認知症支援推進センター 認知症支援担当係長	精神保健福祉士	畠山 啓
精神科 主任	公認心理師	今村 陽子

2.4.2 日程

令和4年12月14日（水）～12月15日（木）

2.4.3 事業実施状況

三宅村の事業実施スケジュールは以下の表の通りである。

月日	時間	用務	会場
12月14日	8:40	調布空港発	
	9:30	三宅島空港着	
	10:30	研修①：知って安心認知症～家族が認知症になったら～	リスタホール
	12:15	認知症よろず相談会	
	16:00	認知症政策ミーティング	
12月15日	9:30	認知症初期集中支援チーム員研修	リスタホール
	13:00	三宅島空港発	
	13:50	調布空港着	

2.4.3.1 研修会

研修	
実施日	令和4年12月14日
会場	リスタホール
時間	10:30～12:15
内容	「知って安心認知症～家族が認知症になったら～」
講師	大森佑貴, 畠山啓, 今村陽子
対象	住民
出席者数	28名



2.4.3.2 事例検討会

実施されなかった。

2.4.3.3 相談会

相談会	
実施日	令和4年12月15日
対象	住民
会場	リスタホール
時間	12:15～12:45
相談件数	4件

2.4.3.4 関係者ミーティング

三宅村の独自事業である、認知症対策事業の一環で開催された認知症政策ミーティングに対し、認知症疾患医療センター職員3名がオブザーバーとして出席した。

(1) 概要

関係者ミーティング	
実施日	令和4年12月14日
会場	リスタホール
時間	16:00～17:00
出席者数	6名

(2) 参加者の属性

所属	n
村役場	6
合計	6

職種	n
事務職	3
保健師	3
合計	6

(3) 内容

関係者ミーティングでは以下の内容が語られた。

1. 老人クラブ・サロン・風のカフェの活動状況について

- ・ 老人クラブは各地区にあり全部で5か所あるが、コロナの影響で参加人数が減り、活動が縮小。そのため予算を使い切れず、4か所が補助金を返還している。
- ・ サロンは、コロナ前は5地区のうち4区はよく活動していたが、去年から1地区のみの活動となった。来年度から一か所再開する見込み。
- ・ 風のカフェは、家族会や認知症の方を受け入れる場所として活動していたが、コロナの影響でここ2年は活動していない。認知症の方の集いの場がないのが現状。

2. 初期集中支援チーム・認知症地域支援推進員の活動状況について

- ・ 初期集中支援チーム員が地域支援推進員を兼ねているため、認知症のケースが出るとその都度チーム員が集まって活動しているが、初期集中支援チームとして計上した活動は平成31年度に1件のみである。
- ・ 現在の初期集中支援チームは、保健師3名、アジサイの里職員1名、保健所副所長、社会福祉協議会の社会福祉士1名の計6名から構成されている。
- ・ 異動が頻繁にあるため、研修を受けて新しいメンバーを随時追加していく状況。

- ・ 地域ケア会議と初期集中支援会議を合同会議という形で活動記録を残す方法もあるのではないか。（センターからの提言）

3. 今後の認知症施策について

- ・ 高齢者福祉計画を策定する際に、高齢者の方にアンケート調査を実施したが、データ不十分なため分析には至っていない。
- ・ 島に認知症の人がどのくらいいるのか、実態調査の方法を模索している。
- ・ 島だとマンパワー不足があり、継続的なサポートが難しい。役場としてどのような事業を優先的に行えば効果的な支援に繋がるのかわからない。
- ・ 現在は、地域包括の見守り、あじさいの里の配食サービス、シルバー人材のゴミ出し手伝いなど、高齢者の家に出入りするサービスがいくつかある。既存事業を活用して認知症の早期発見に繋げることや、その後の生活の支援に繋げることは可能ではないか。（センターからの提言）



3 各島で実施した研修の質の評価

3.1 八丈町で実施した研修の質の評価

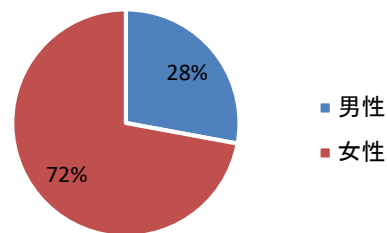
研修の質を評価するために、研修終了後に、研修受講者に対しアンケートを実施した。
以下に、八丈町で実施したアンケートの結果を、研修の単位ごとに示す。

3.1.1 研修①「認知症とともに生きるために」

問1 ご自身のことについて教えてください

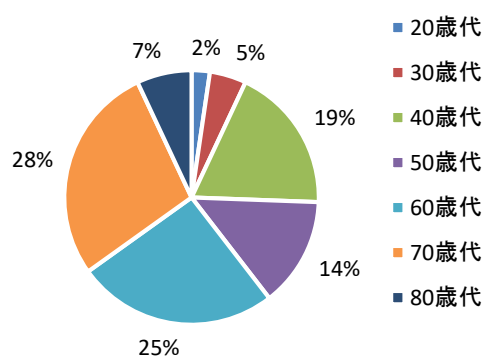
1. 性別

	n	%
男性	12	28%
女性	31	72%
合計	43	100%



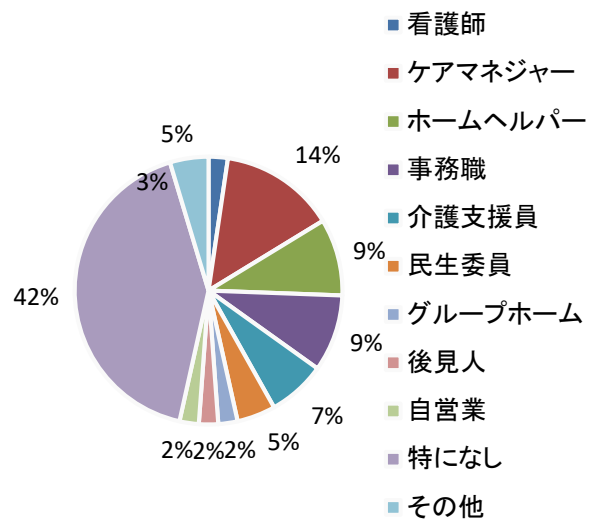
2. 年代

	n	%
20 歳代	1	2%
30 歳代	2	5%
40 歳代	8	19%
50 歳代	6	14%
60 歳代	11	25%
70 歳代	12	28%
80 歳代	3	7%
合計	43	100%



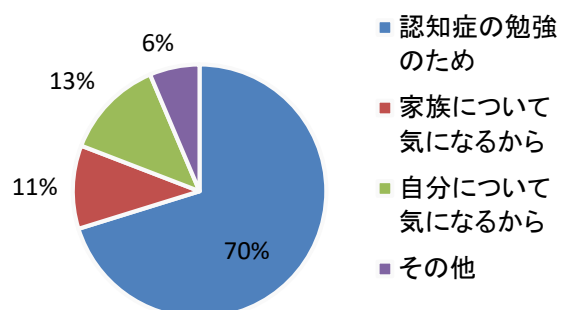
3. 職種

	n	%
看護師	1	2%
ケアマネジャー	6	14%
ホームヘルパー	4	9%
事務職	4	9%
介護支援員	3	7%
民生委員	2	5%
グループホーム	1	2%
後見人	1	2%
自営業	1	2%
特になし	18	42%
その他	2	5%
合計	43	100%



問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

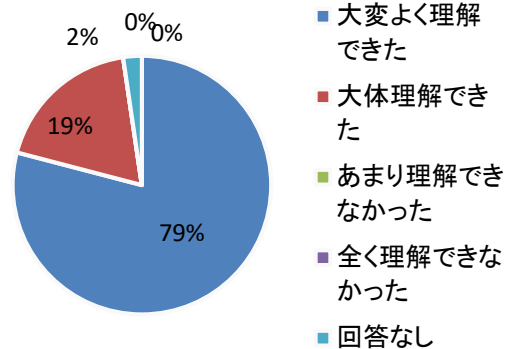
	n	%
認知症の勉強のため	33	70%
家族について気になるから	5	11%
自分について気になるから	6	13%
その他	3	6%
合計	47	30%



問3 講演について

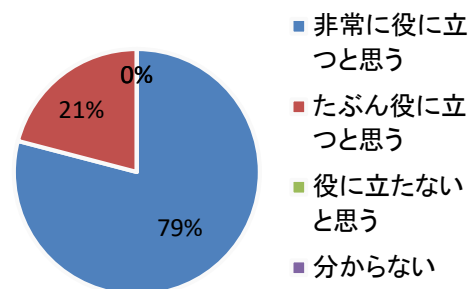
(1) 講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	34	79%
大体理解できた	8	19%
あまり理解できなかった	0	0%
全く理解できなかった	0	0%
回答なし	1	2%
合計	43	100%



(2) 講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	34	79%
たぶん役に立つと思う	9	21%
役に立たないと思う	0	0%
分からない	0	0%
合計	43	100%



具体的内容

- おかしいな？から支援までの流れなど再確認することができた。
- 認知症の家族に付き添っていく考え方とかどこまで相手の気持ちを理解するとか考えさせられました。
- 友人、知人にも講座への参加を進めたい。
- 講師の話し方、声のトーン、表情など気持ちよく聞けました。
- 内容もわかりやすく理解できました。（聞く側は自分の立ち位置でしっかり聞いたのでは）
- 八丈版 A さんの例もよくわかりました。
- 現在、義父が認知症です。ありがとうございます。
- 認知症の進行に伴って変化する過程と支援、理解しやすかった。
- 支援者側の困り事に重きを置いてしまいがちで本人の思いを、本人側に立ち考えたい。

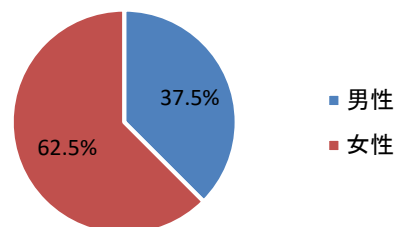
- また、きちんと本人から本人言葉を聞き出す工夫をしていきたいと思いました。ありがとうございました。
- 仕事上も自分と家族のことでも勉強になる内容でとてもよかったです。
- 認知症になった方々を交えて何か物事をきめる時、どうしても時間の都合等を考え、本人を抜きにして
- 話しを進めてしまいがちですが、しっかりと本人の気持ちを聞きながら話し合いをしていきたいと思う。
- 年々、支援、介護の仕方、本人とのかかわり方について考えが変わっていった勉強になった。
- 元気な時、話ができる時に病気になった時はそうしたいかを確認が大事。
- 78歳の利用者さんがおられるので、今後見逃しのない様見守って行きたいです。現在も物忘れはありますので…。
- 82歳の母がいます。兄が主介護者となった時、副介護者として兄を支えたいと思います。
- 母は現在はとても元気です。今後の参考になりました。
- 民生委員なのでかわりが多いので。
- 認知症の始まりから終わり？
- 自分のこれからの事等子供に話しておく事。
- 八丈存在を例に具体的に説明があり、口調もハキハキしてとてもわかりやすかった。資料もよかった。
- 今までの知識が具体的にはっきりしたと思えたので今後の役に立つと理解できた。
- その人の気持ちを大切にしたい支援をしていきたい。家族の負担軽減が中心になってしまう。
- 認知症の方の接し方についてや気持ちについて参考にしたいと思います。
- 自分がそうなった時、家族に伝えられるだろうと思う。

3.1.2 研修②「DASC 研修」

問 1 ご自身のことについて教えてください

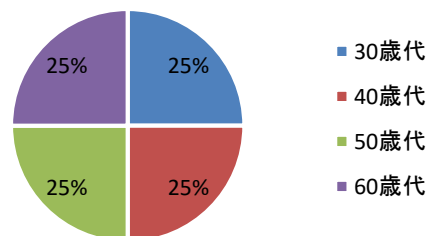
1. 性別

	n	%
男性	3	37.5%
女性	5	62.5%
合計	8	100%



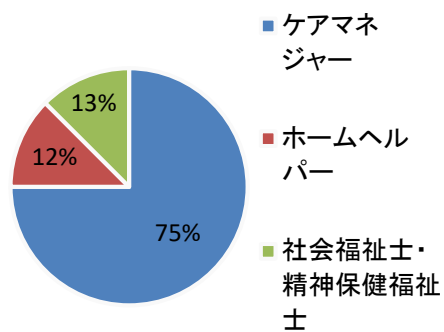
2. 年代

	n	%
30 歳代	2	25%
40 歳代	2	25%
50 歳代	2	25%
60 歳代	2	25%
合計	8	100%



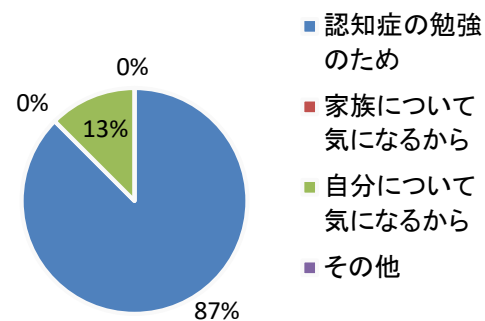
3. 職種

	n	%
ケアマネジャー	6	75.0%
ホームヘルパー	1	12.5%
社会福祉士・精神保健福祉士	1	12.5%
合計	8	100%



問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

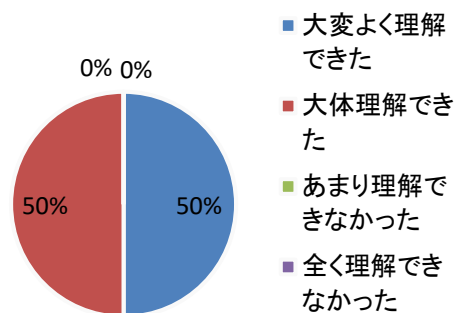
	n	%
認知症の勉強のため	7	87.5%
家族について気になるから	0	0%
自分について気になるから	1	12.5%
その他	0	0%
合計	8	13%



問3 講演について

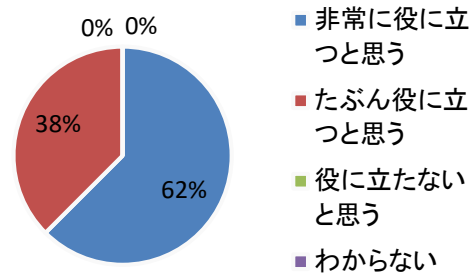
(1) 講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	4	50%
大体理解できた	4	50%
あまり理解できなかった	0	0%
全く理解できなかった	0	0%
合計	8	100%



(2) 講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	5	62.5%
たぶん役に立つと思う	3	37.5%
役に立たないと思う	0	0%
わからない	0	0%
合計	8	100%



具体的内容

- 利用者の認知症がどちらの分野になっているのかを知るために活用したい。
- 本人の全体像把握に利用したいと思った。ありがとうございました。
- 病院診療では長谷川式が一般的スケールなのかな。こういう評価法がある事、勉強できて良かった。

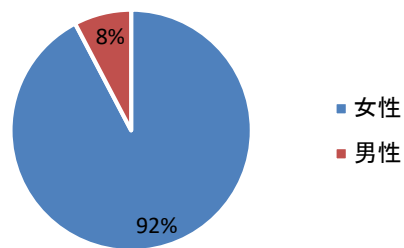
- DASC 研修をくわしく受けたかった。

3.1.3 研修③「高齢者の精神疾患・せん妄ケア」

問1 ご自身のことについて教えてください

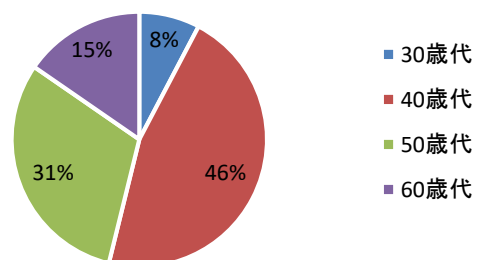
1. 性別

	n	%
女性	12	92%
男性	1	8%
合計	13	100%



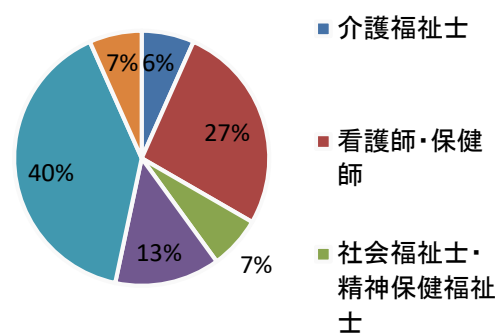
2. 年代

	n	%
30 歳代	1	8%
40 歳代	6	46%
50 歳代	4	31%
60 歳代	2	15%
合計	13	100%



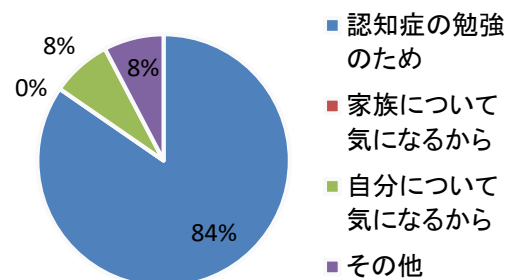
3. 職種

	n	%
介護福祉士	1	7%
看護師・保健師	4	26%
社会福祉士・精神保健福祉士	1	7%
ホームヘルパー	2	13%
ケアマネージャー	6	40%
事務職	1	7%
合計	15	100%



問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

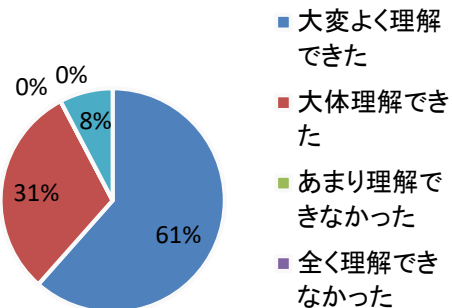
	n	%
認知症の勉強のため	11	84%
家族について気になるから	0	0%
自分について気になるから	1	8%
その他	1	8%
合計	13	100%



問3 講演について

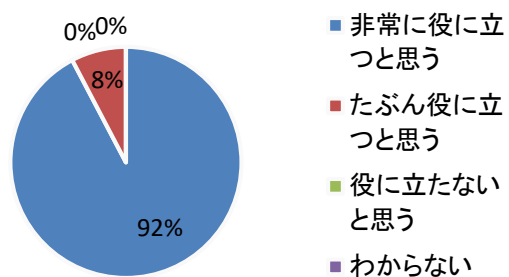
(1) 講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	8	61%
大体理解できた	4	31%
あまり理解できなかった	0	0%
全く理解できなかった	0	0%
回答なし	1	8%
合計	13	100%



(2) 講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	12	92%
たぶん役に立つと思う	1	8%
役に立たないと思う	0	0%
わからない	0	0%
合計	13	100%



具体的内容

- 症状・特徴・薬治療等勉強になりました。
- 身近な男性 80 才の様子が変わってきていた。胃腸の具合が悪いと受診、検査。ピロリ菌 (+) 薬処方されるも気持ち悪いから服薬中止したり町立→岩瀬クリニックに変えると言ったり

注意してる内に不安、気分不快、進行、救急車搬送するも異常なしで退院(1泊はする)しばらくは外出するが体調が悪いと身内に来てほしいと連絡する状態が一か月位である。

- 入院し環境が変化するだけでも高齢者はほぼ8割位はせん妄や認知症が悪化する。今後の対応にいかせたらと考えています。とてもよい研修になりました。
- うつと認知症の違い、妄想などの違いについて判断基準や対応について
- 実際の医療現場での診断基準を教えていただき大変参考になった。「うつ病への対応は聞き役に徹する」など具体的に対応の注意点等がわかったので、これからの通所者や利用者の方と接する際、気をつけていこうと思う。
- 精神疾患、認知症の区別について理解できた。内服、副作用についても理解する事ができました。資料を見直して今後の業務に役立てていきたいと思います。
- 精神疾患、せん妄ケアについて改めてわかり業務に役立てたい。
- 久しぶりに精神医療の面白さに触れることができました。業務の役に立つかは直接的ではないかもしれませんが学び直したいなと思えました。
- 高齢者＝認知症と考えてしまいがちですがお話を聞いて、見る視点が違うなと思いました。症状を併せ持つ方も多くて悩むことも多いですが参考にしたいと思いました。
- せん妄になってしまう患者さんが多く、入院という環境の変化なんだから仕方ない…となかば諦めていて粗雑な対応をしがちでしたが今回で対応の仕方を学んだと思う。また薬剤についても具体的にわかりやすかった。
- 医師への具体的説明の方法や内服薬について学ぶ事が出来た。受診同行の際に気をつけていけたらと思います。

問4 ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

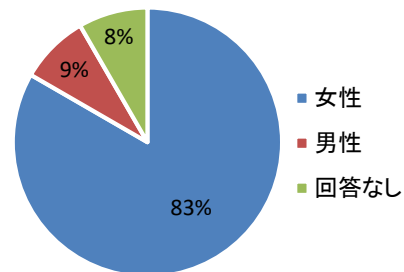
- 介護保険申請済、要支援1認定。問3の男性についてたぶん本人からの訴え等で不安が強かったのではないかと。内科で意見書提出。救急車搬送状態から精神科に繋がるようにお願いしたい。新規予約が取れない内に症状は進行していくと思われる。今後も八丈島に来て下さい。八丈島役場、八丈町立HPへ住民の困り事一緒に解決お願いします。
- 具体的にいくつか症例を挙げながらお話いただけたのでわかりやすくそれぞれイメージしながら聞くことができました。医療現場でよく処方されてる薬のことなどについても教えていただき大変参考になりました。同じ様な症状に見えても対処法はそれぞれ病気によって異なることがわかったので病気についての正しい理解をこれからも深めていきたいと思います。ありがとうございました。
- オンラインで今は研修も受けられる時代ですがやっぱり直接話ができる機会(amの集合研修)があったので知ってる先生の話と思って聞くことができた感じがしました。貴重な機会を作って頂きありがとうございました

3.1.4 研修④「集団療法」

問1 ご自身のことについて教えてください

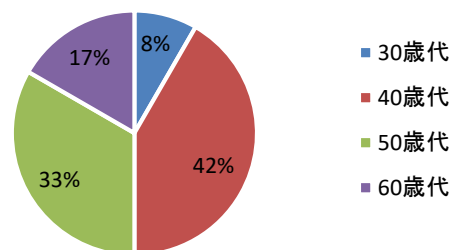
1. 性別

	n	%
女性	10	84%
男性	1	8%
回答なし	1	8%
合計	12	100%



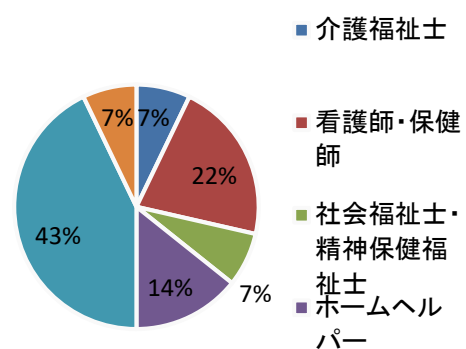
2. 年代

	n	%
30 歳代	1	8%
40 歳代	5	42%
50 歳代	4	33%
60 歳代	2	17%
合計	12	100%



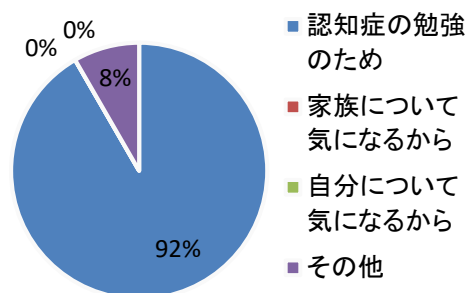
3. 職種

	n	%
介護福祉士	1	7%
看護師・保健師	3	22%
社会福祉士・精神保健福祉士	1	7%
ホームヘルパー	2	14%
ケアマネージャー	6	43%
事務職	1	7%
合計	14	100%



問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

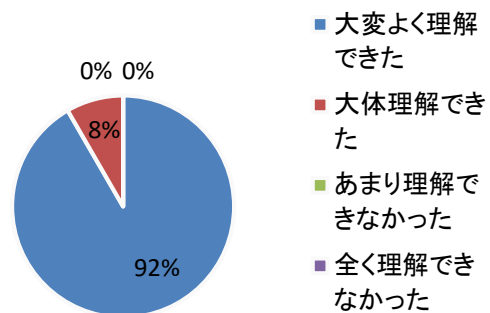
	n	%
認知症の勉強のため	11	92%
家族について気になるから	0	0
自分について気になるから	0	0
その他	1	8%
合計	12	100%



問3 講演について

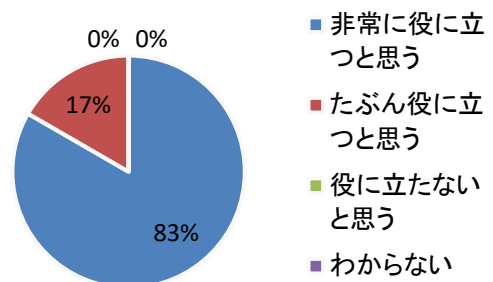
(1) 講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	11	92%
大体理解できた	1	8%
あまり理解できなかった	0	0%
全く理解できなかった	0	0%
合計	12	100%



(2) 講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	10	83%
たぶん役に立つと思う	2	17%
役に立たないと思う	0	0%
わからない	0	0%
合計	12	100%



具体的内容

- 本人交流会について具体的なやり取りの一場面を紹介してもらえたことで認知症の方々が互いに励まし合いながら受容していくことがわかった。地域活動センターの中で通所者同士がこのような会話をされる場面が見られるがとても大切な機会であることがわかったのでこれからも見守っていく。
- 中期になり自我の境界が不明瞭になるとおっしゃっていて自分の中では認知症に対して自我境界としてとらえていなかったな—と思いました。若年や終末期にかかわることが多かったのですが老年期ちゃんと学ぼうと思いました。
- 話す場を作ることが大事だなと思いました。同じ境遇の方々が一緒にお話をする時間で不思議と解りあえることもたくさんあるんだなあと改めて思いました。
- 介護保険サービス以外にも交流会等家族も気軽に相談できる場があると良い。
- 介護の仕事に入った頃、回想法をよく行っていた事を思い出しました。機会があればやってみたい。
- レクリエーション、ホーム喫茶で少しでも楽しんでもらえるよう八丈太鼓入所者とたたいています。歌もです。でも一人では大変になっている。体力的にもグループの構成でスタッフ(2-3 人必要)。職員との仲間作りしたいと思います。
- 支援のきっかけになると思いました。

問 4 ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

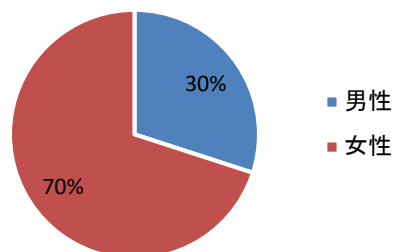
- 具体的な事例を挙げながら説明していただきありがとうございました。地域活動センターの通所者の方の中に認知症の方がいるので昔の写真等を見ながら子どもの頃の暮らしを思い出したり、なつかしい歌を歌う場面を作ったりするのも良い取り組みだと感じました。不安が強い方も多いので無理なく一人一人が楽しく過ごせるような工夫ができたと思っています。大変参考になりました。
- 長寿医療センターの公開講座を見ようと思いました。ありがとうございました。

3.1.5 研修⑤「認知症予防と備え」

問 1 ご自身のことについて教えてください

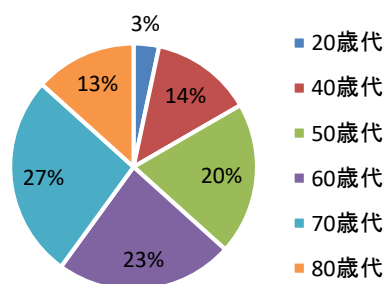
1. 性別

	n	%
男性	9	30%
女性	21	70%
合計	30	100%



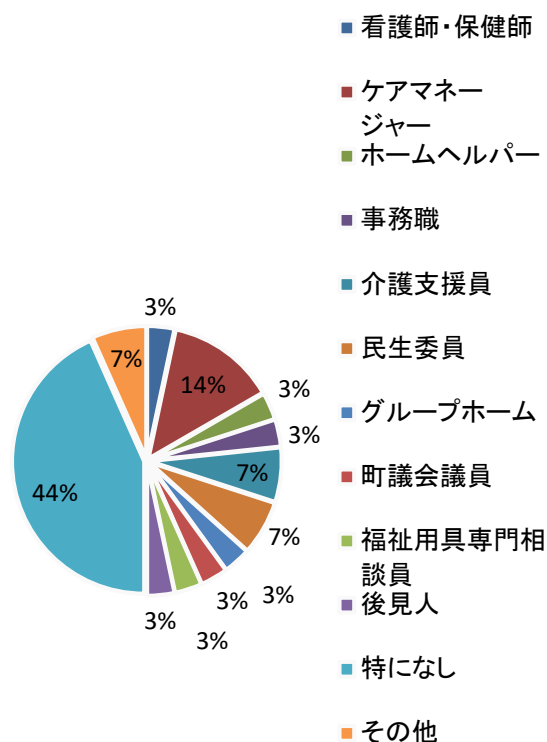
2. 年代

	n	%
20 歳代	1	3%
40 歳代	4	13%
50 歳代	6	20%
60 歳代	7	24%
70 歳代	8	27%
80 歳代	4	13%
合計	30	100%



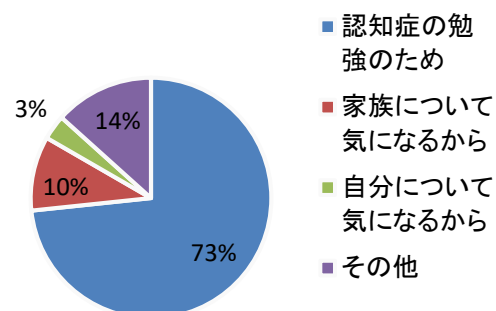
3. 職種

	n	%
看護師・保健師	1	3%
ケアマネージャー	4	14%
ホームヘルパー	1	3%
事務職	1	3%
介護支援員	2	7%
民生委員	2	7%
グループホーム	1	3%
町議会議員	1	3%
福祉用具専門相談員	1	3%
後見人	1	3%
特になし	13	44%
その他	2	7%
合計	30	100%



問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

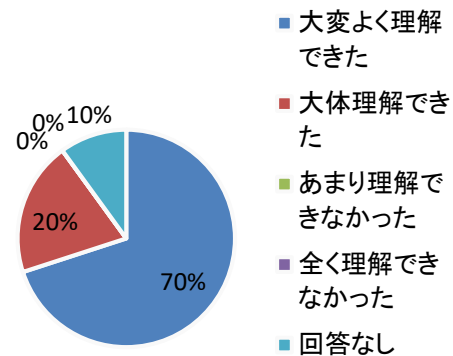
	n	%
認知症の勉強のため	22	73%
家族について気になるから	3	10%
自分について気になるから	1	3%
その他	4	13%
合計	30	100%



問3 講演について

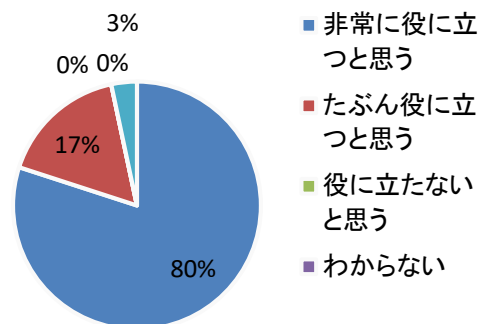
(1) 講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	21	70%
大体理解できた	6	20%
あまり理解できなかった	0	0%
全く理解できなかった	0	0%
回答なし	3	10%
合計	30	100%



(2) 講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	24	80%
たぶん役に立つと思う	5	17%
役に立たないと思う	0	0%
わからない	0	0%
回答なし	1	3%
合計	30	100%



具体的内容

- 昨日よりさらに詳しく知ることが出来ました
- 聴力の事、歯周病の事、確かに認知症のリスクですね。コミュニティーカフェでも今月歯科衛生士に来てもらい皆さんに基本の磨き方やお口の健康など指導して頂く予定です。
- 92才(男)家では横になっている事が多く畑に行っても目が回る。デイサービスでは楽しく歌を歌ったりする。これは同じ症状の人がいるから。交流、人と会う事が大事。
- 認知症の予防、他について利用者への対応や家族へのアドバイスのひとつとして利用していきたい。
- 予防段階、日常生活の取り組み大切、運動・食事見直し確認できる点
- バラバラになっていた知識情報を少し体系化というかまとまった感じになり日常生活での目標を立てやすくなった気がする。ゆっくり話して頂けてわかりやすかったです。
- 自分自身の日常生活に見直しに大変役に立つと思う。

- 高齢者との対応で早期発見、早期治療に繋がれば良いと思う。
- 普段からの生活(食事運動睡眠)歯のケア等予防で発症を減らす事も出来る。自分も気をつけていきたい。島にも当事者が気軽に集まれるサロンがあると良い。
- 普段から意識していてもなかなか予防に取り組む事が難しいですがお話を聞いて改めて大事な事だなと思いました。
- 認知症は特別な病気ではなく誰にでも起こりえる事だと知っておくだけでも大分気分が楽になる(ご本人もご家族も)と感じました。悩んでる方がいたらそれを教えていける様にしたいです。
- 認知症の方同士の当事者としての困り事を話す事が大切との事。事業所に持ち帰って報告しそういった事を大切にしたいと思います。
- ぼんやりとしていた中身が少し見えてくるような気がしました。具体例がありわかりやすかったです。
- 認知症予防のためには生活習慣や食生活を整えることが非常に重要であることがわかりました。
- 早期発見のため病院に行くきっかけが出来ました。

問 4 ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

- 大森先生の病院へ受診するにはどうすればよいのでしょうか。八丈の病院からの紹介状が必要でしょうか。
- 大森先生の病院に行きたいです。どうしたらよいのでしょうか。
- とても興味深いお話でした。参考にさせていただきたい事がたくさんありました。ありがとうございました。
- 大変勉強になりました。
- 参加出来る限りは出席したいと思いますので今後も継続して、こういった講習会(認知症に限らず)行って頂けたらと思いました。
- 島内にも「ココから話そう会」があったら良い。
- 大変分かりやすい講義で良かった。
- お話を聞いて改めて強く感じた事。
貧困が認知症発症の根底にも影響していること、認知症予防に重要なこと全て生活に余裕がないとできません。年金収入のみでそれも基礎年金のみの高齢者にとっては難しい。認知症予防を貧困と切り離して講ずる事は片手落ちではないだろうか？

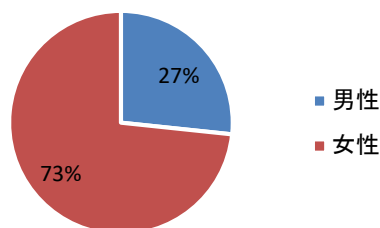
- 【お願い】
町立病院の専門外来に認知症専門外来,もの忘れ外来などやさしい言葉に置き換え専門医を呼ぶことは出来ないでしょうか。精神科は行きづらいところがあるので。
島では一人暮らし認知症高齢者が今後ますます増えるでしょう。在宅の一人暮らし認知症高齢者をどうするどの様な支援が必要か考える必要がある。
- とても聞きやすかったです。
- とても良い(わかりやすい)講義でした。ありがとうございました。明らかに認知の人に対しての接し方も知りたいと思います。よろしくお願いします。

3.1.6 研修⑥「認知症の基礎～応用、精神症状等」

問 1 ご自身のことについて教えてください

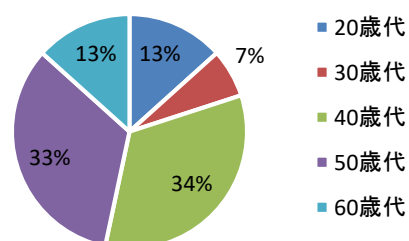
1. 性別

	n	%
男性	4	27%
女性	11	73%
合計	15	100%



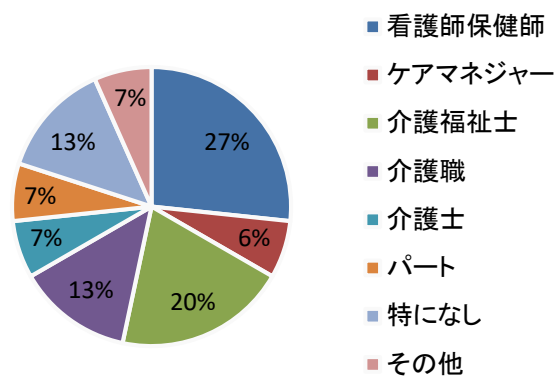
2. 年代

	n	%
20 歳代	2	13%
30 歳代	1	7%
40 歳代	5	33.5%
50 歳代	5	33.5%
60 歳代	2	13%
合計	15	100%



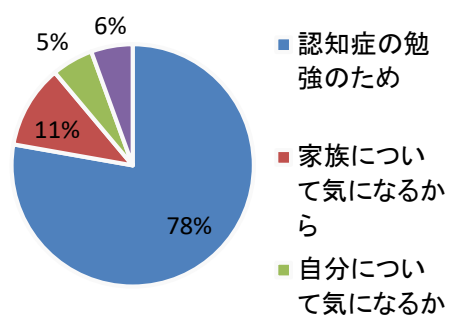
3. 職種

	n	%
看護師保健師	4	26%
ケアマネジャー	1	7%
介護福祉士	3	20%
介護職	2	12%
介護士	1	7%
パート	1	7%
特になし	2	13%
その他	1	7%
合計	15	100%



問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください(複数回答者あり)

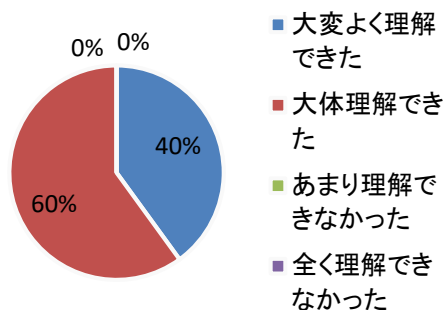
	n	%
認知症の勉強のため	14	77%
家族について気になるから	2	11%
自分について気になるから	1	6%
その他	1	6%
合計	18	100%



問3 講演について

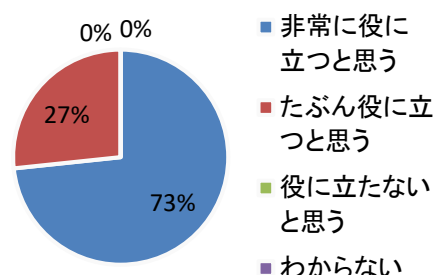
(1) 講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	6	40%
大体理解できた	9	60%
あまり理解できなかった	0	0%
全く理解できなかった	0	0%
合計	15	100%



(2)講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	11	73%
たぶん役に立つと思う	4	27%
役に立たないと思う	0	0%
わからない	0	0%
合計	15	100%



具体的内容

- 高齢に向かっている自分(63 才)がもし認知症が発症した際にしてほしい事、ほしくない事など今から記録したり Fa に伝わるようにして楽しい高齢者で過ごしたいと思いました。「私らしく生きたい、生きる」
- 症状を認知症のせいと決めつけないこと、人間としてあたりまえの感情である BPSD を理解したい。
- 利用者さんの声掛けなど参考になりました。
- 今後の介護に向けて大変役立つと思います。
- 不穏時薬の使い方等について役立つと思いました。
- 認知症の方と関わる仕事で内容がかなりあてはまることが多く勉強になりました。
- レビー小体型認知症疑いのある利用者様がいたので症状に応じ相談していく。
- コミュニケーションのとり方、認知症、せん妄の違い、対応などありがとうございました。
- 3 ,治療とケア
認知刺激や運動療法、音楽療法などで積極的にやってみようと思再認識
- もっとゆっくり話ができれば充分役立つと思います。

問 4 ご意見ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

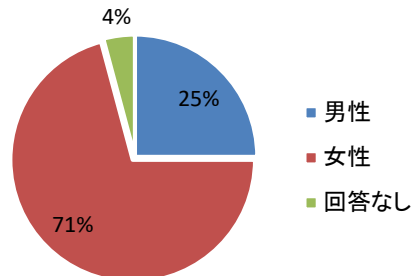
- 今年介護士として働き始めたばかりなので、専門的な講習はとてもこれからのケアに役立つと思います。ありがとうございました。

3.1.7 研修⑦「介護者の心理と介護うつ予防」

問1 ご自身のことについて教えてください

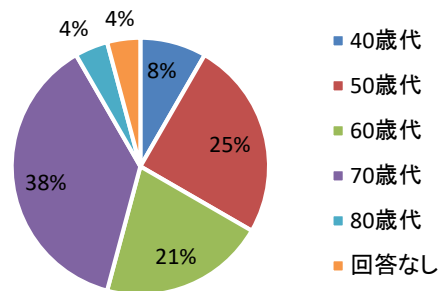
1. 性別

	n	%
男性	6	25%
女性	17	71%
回答なし	1	4%
合計	24	100%



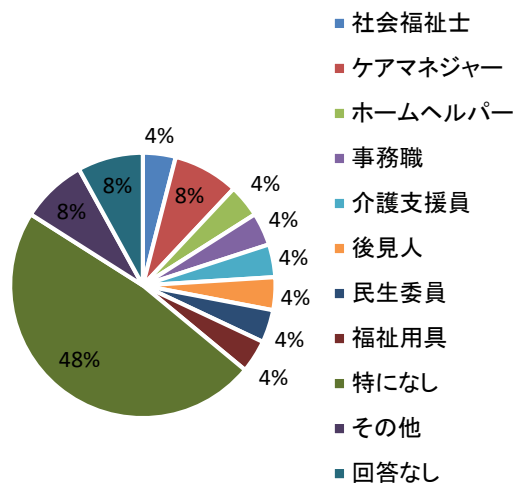
2. 年代

	n	%
40 歳代	2	8%
50 歳代	6	25%
60 歳代	5	21%
70 歳代	9	38%
80 歳代	1	4%
回答なし	1	4%
合計	24	100%



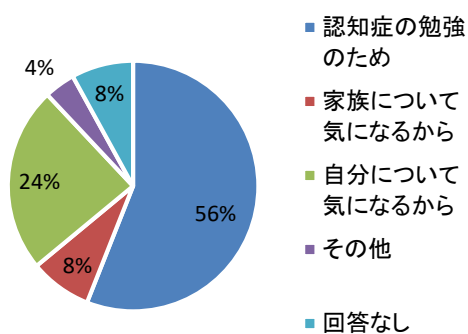
3. 職種

	n	%
社会福祉士	1	4%
ケアマネジャー	2	8%
ホームヘルパー	1	4%
事務職	1	4%
介護支援員	1	4%
後見人	1	4%
民生委員	1	4%
福祉用具	1	4%
特になし	12	48%
その他	2	8%
回答なし	2	8%
合計	25	100%



問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

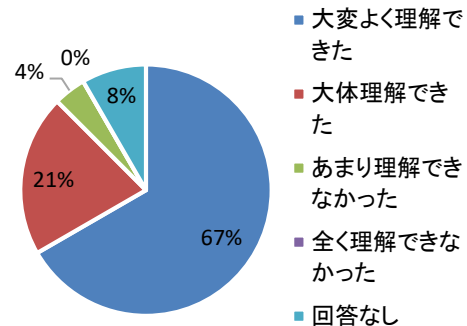
	n	%
認知症の勉強のため	14	56%
家族について気になるから	2	8%
自分について気になるから	6	24%
その他	1	4%
回答なし	2	8%
合計	25	100%



問3 講演について

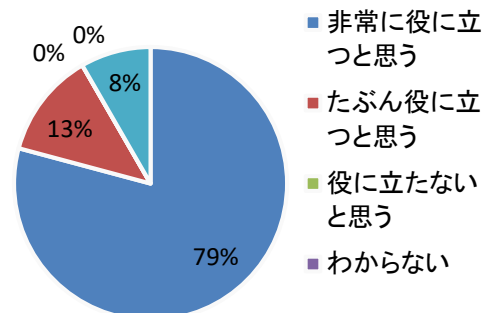
(1) 講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	16	67%
大体理解できた	5	21%
あまり理解できなかった	1	4%
全く理解できなかった	0	0%
回答なし	2	8%
合計	24	100%



(2) 講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	19	79%
たぶん役に立つと思う	3	13%
役に立たないと思う	0	0%
わからない	0	0%
回答なし	2	8%
合計	24	100%



具体的内容

- 介護度が高くなった時の心がまえができそう。マインドフルネス使ってみます。
- うつ予防になる。
- 職場でも皆に話してストレスを減らして仕事ができる様にしていきたいと思った。
- 3日間3人の講師の方々が資料を流れよく提示して多くの情報と時間にまとめてすごいと思いました。今日は実践もあって大変参考になりました。3日間ありがとうございました。
- 介護うつだけではなく若い人の生活面でもこれを参考にして話してあげたいと思う。ぐるぐる思考これは役に立ちます。
- 自身のストレス解消はもちろん家族や業務上でも(ご利用者様家族)話の聞き方、考え方、方法など理解した上で役立てたいと思います。
- 呼吸のマインドフルネス 初めて勉強させてもらいましたとても良かったです。

- 介護うっただけにかかわらず自分のまわりには「先取り不安」の人がたくさんいる。マインドフルネスやコーピングの方法を教えてあげたいと思う。
- ため息については仕事でストレスの時によくやっていたが手を洗いながら今後していきたい
- 実践が可能な内容が多かったと思う。いくつか日常の中で取り入れてみたいと思った。
- 現在親の介護中なので。
- 日常にも役立つとてもわかりやすいお話で大変参考になりますありがとうございました。
- ぐるぐる思考から抜け出すワーク。マインドフルネス
- うつになりやすい体質だと思います。今日の勉強会を生かしてやってみたいです。
- 早期に相談できる場がいくつもある事が大切とつくづく思います。選択肢が多い事も。その一言で気持ちが楽になったと思われる表情を見られホッとした事があります。まず知識を持って次に笑顔で接したいと思いました。
- うつ予防になる。
- ストレスを溜めない様に普段からコーピングを行うようにして自分にもいろいろ当てはめてうつ予防したい。
- 介護を今後することはない(対象となる家族がいらない)ので自分がうつ、認知症状が出て来た場合の心がまえに役に立つ。
- 瞑想法とてもいいと思いました。今後役立てたいと思います。

問 4 ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

- レジメの文字多い。もっと少なくていいと思う。
- 日々のストレスを減らす方法を色々教えて頂いたので自分に合う方法を見付けていきたいと思いましたありがとうございました。
- とてもわかりやすかったです今後もこのような会をお願いします。
- 85歳の母は自分が接している同年代よりは十分元気ですがそれなりに年を重ね今後介護が必要になると思います。参考になりました。
- ストレッチやってみます。
- 町の中にはたくさんの方が介護に携わっていると思います。その方々が少しでもストレス軽減になるように具体的なことに町が携われると良いなと思います。
- ありがとうございました。心理的安全性が保てる。

- ありがとうございます。
- ありがとうございます 3 日間大変良かったです。
- 最近特に感じるのは認知症の方の取り巻く環境の中で特に支える場の専門知識が低いこと。医師、看護師、民生委員、施設スタッフ…もう少し本人家族の気持ち、想いをまず聞く姿勢そして知識を持ってケアする大切さをアドバイスしてほしいと思います。これから島で生きて死んでいくプロセスは今、島で生きている人にとって何が大切か考えて進んでいきたいと考えています。自分が安心安楽を目標にこの島で生きたいと思ってます。10 分間のマインドフルネス良かったです。
- 問 3…自分が悪いですけど(耳、目よくない)先生の話がマイクのせいなのかそれともマスクをして話すからなのかよく聞こえなかった。また資料により文字が小さすぎてよく見えなかった。
- 自分にも不安がありますが周りに症状がある人が増えています。知人として友人としてどうつきあうか手伝えるかに心を痛めます。
- ブライドの高い家族は自らの家族で起きている事情を否定し受け入れる傾向にある。認知症本人が社会的地位が高かった人はご本人が受け入れない。介護者が社会的地位の高い方はその分支援を拒み関与することを嫌がる。どのようにしていったらよいのか？大きなストレスから逃れる方法は良いか悪いのか？

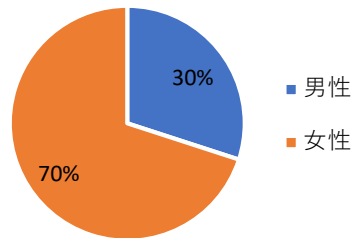
3.2 小笠原村で実施した研修の質の評価

3.2.1 研修①「認知症基礎講座」

問1 ご自身のことについて教えてください

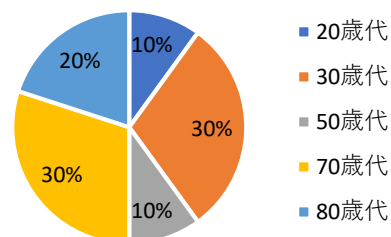
1. 性別

	n	%
男性	3	30%
女性	7	70%
合計	10	100%



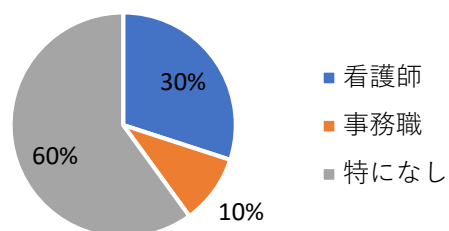
2. 年代

	n	%
20 歳代	1	10%
30 歳代	3	30%
50 歳代	1	10%
70 歳代	3	30%
80 歳代	2	20%
合計	10	100%



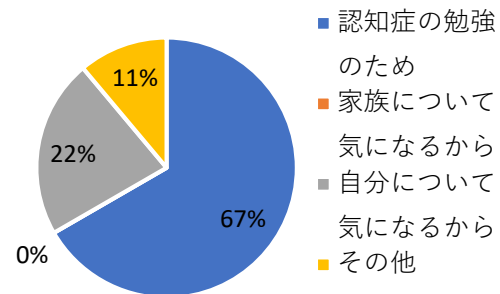
3. 職種

	n	%
看護師	3	30%
事務職	1	10%
特になし	6	60%
合計	10	100%



問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

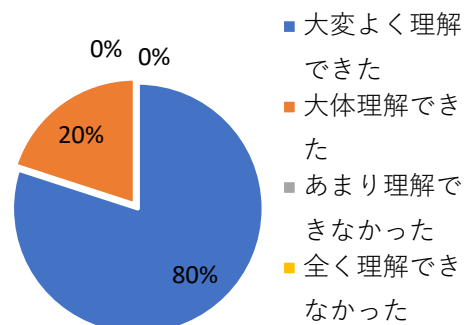
	n	%
認知症の勉強のため	6	66.7%
家族について気になるから	0	0%
自分について気になるから	2	22.2%
その他	1	11.1%
合計	9	33%



問3 講演について

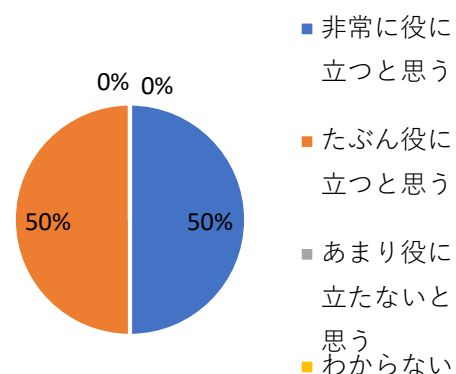
(1) 講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	8	80%
大体理解できた	2	20%
あまり理解できなかった	0	0%
全く理解できなかった	0	0%
合計	10	100%



(2) 講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	5	50%
たぶん役に立つと思う	5	50%
あまり役に立たないと思う	0	0%
わからない	0	0%
合計	10	100%



具体的内容

- 改めて認知症の病態、症状、支援方法を学ぶことができました。ご本人がどんな不安、心配をかかえているのかしっかり考えていきたいと思います。
- 認知症の基礎的な事が分かり良かったです。
- 現在認知症につき大変心配していたので少し自分を気遣う事になった。
- それぞれの認知症の特徴を理解できた。

問4 ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

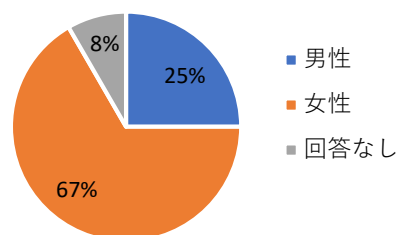
- 説明がとても分かりやすくとても勉強になりました。ありがとうございました。
- ありがとうございました。

3.2.2 研修②「認知症予防と備え」

問1 ご自身のことについて教えてください

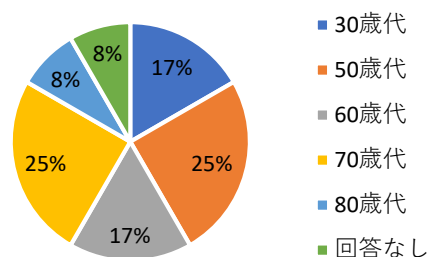
1. 性別

	n	%
男性	3	25%
女性	8	67%
回答なし	1	8%
合計	12	100%



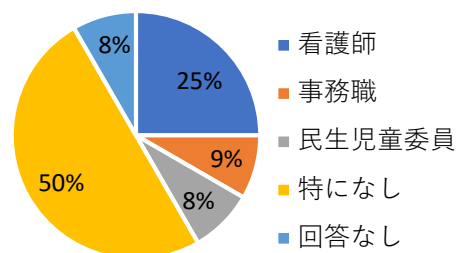
2. 年代

	n	%
30 歳代	2	17%
50 歳代	3	25%
60 歳代	2	17%
70 歳代	3	25%
80 歳代	1	8%
回答なし	1	8%
合計	12	100%



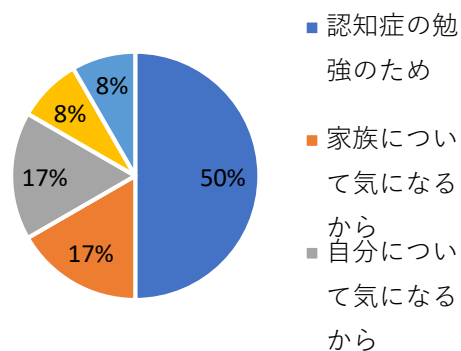
3. 職種

	n	%
看護師	3	25%
事務職	1	8%
民生児童委員	1	8%
特になし	6	50%
回答なし	1	8%
合計	12	100%



問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

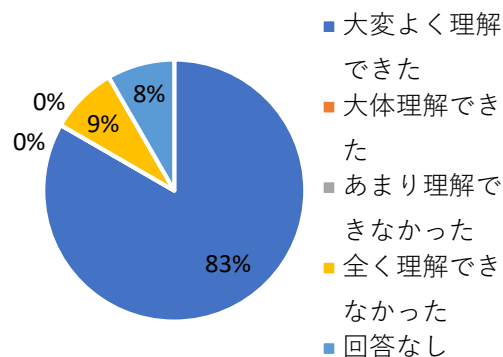
	n	%
認知症の勉強のため	6	50%
家族について気になるから	2	17%
自分について気になるから	2	17%
その他	1	8%
回答なし	1	8%
合計	12	100%



問3 講演について

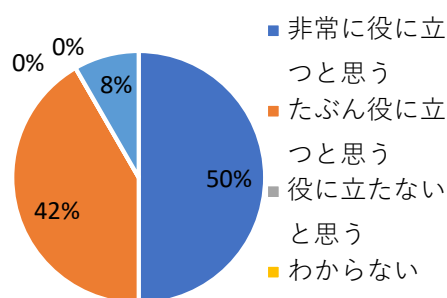
(1) 講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	10	83%
大体理解できた	0	0%
あまり理解できなかった	0	0%
全く理解できなかった	1	8%
回答なし	1	8%
合計	12	100%



(2) 講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	6	50%
たぶん役に立つと思う	5	42%
役に立たないと思う	0	0%
わからない	0	0%
回答なし	1	8%
合計	12	100%



具体的内容

- すぐに取り入れる事がいくつも分かり生活の改善が出来そうです。注意分割機能、計画力、ウォーキングのコツ、2 日前の日記を書く etc 受けた恩を返せない苦痛…なるほど！！と思いました。
- 予防の具体例、初期の過ごし方が参考になりました。とても分かりやすい内容、話し方で聞きやすかったです。ありがとうございました。
- 認知症についてご本人に聞いた事がわかり今後のケアに繋がられると思った。
- 認知症ということに 82 歳を迎えてから不安を感じていたが講習会に参加して安心感を少し覚えた。
- 認知症は日々の生活習慣で予防できることを知った。

問 4 ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

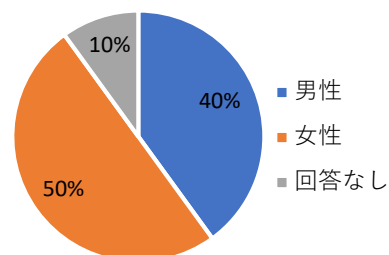
- twitter を見ます。すごく良いお話ありがとうございました。
- 認知症の予防について理解を深める事ができた。ありがとうございました。

3.2.3 研修③「集団療法のススメ方」

問 1 ご自身のことについて教えてください

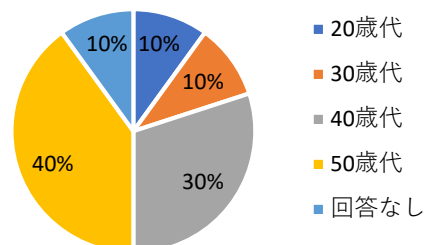
1. 性別

	n	%
男性	4	40%
女性	5	50%
回答なし	1	10%
合計	10	100%



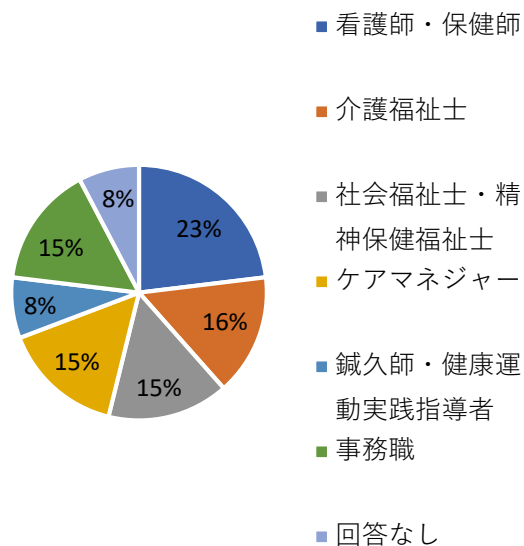
2. 年代

	n	%
20 歳代	1	10%
30 歳代	1	10%
40 歳代	3	30%
50 歳代	4	40%
回答なし	1	10%
合計	10	100%



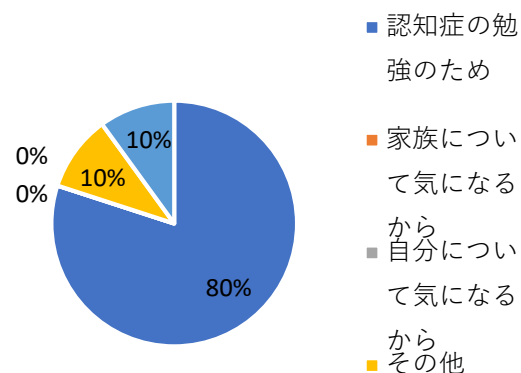
3. 職種

	n	%
看護師・保健師	3	23%
介護福祉士	2	15%
社会福祉士・精神保健福祉士	2	15%
ケアマネジャー	2	15%
鍼灸師・健康運動実践指導者	1	8%
事務職	2	15%
回答なし	1	10%
合計	13	100%



問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

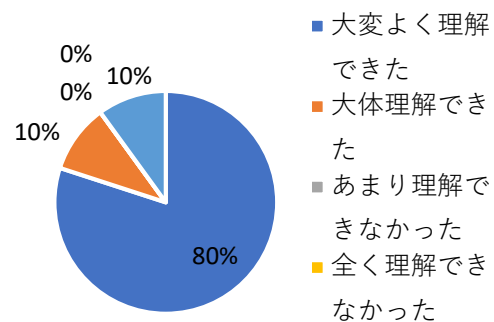
	n	%
認知症の勉強のため	8	80%
家族について気になるから	0	0%
自分について気になるから	0	0%
その他	1	10%
回答なし	1	10%
合計	10	100%



問3 講演について

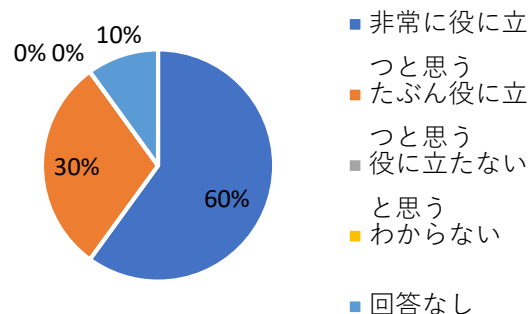
(1) 講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	8	80%
大体理解できた	1	10%
あまり理解できなかった	0	0%
全く理解できなかった	0	0%
回答なし	1	10%
合計	10	100%



(2)講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	6	60%
たぶん役に立つと思う	3	30%
役に立たないと思う	0	0%
わからない	0	0%
回答なし	1	10%
合計	10	100%



具体的内容

- 具体的なプログラムの内容がわかりました。
- 島という事もあり昔からの知り合いであったり親戚であったりという方が多く回想法は取り入れやすい環境だと思います。
- 仕事に生かしていきます。
- 改めて認知症の人の対応について振り返りが出来た。個別対応の大切さ。
- 認知症状の違いを個別にとらえて支援につなげたい。
- 自分が受け持っている現場を思い浮かべながら拝聴しました。回想法について取り入れていきたいと思います。
- 訪問した際などで回想法を用いてコミュニケーションを取りたいと思う。

問 4 ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

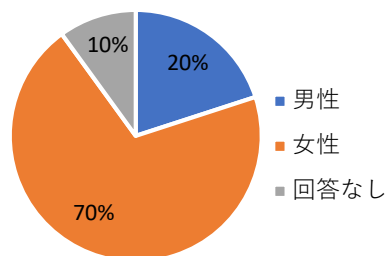
- これからも講演会を開催して頂けますよう勉強の機会として宜しくお願いします。
- ありがとうございました。

3.2.4 研修④「認知症とともに生きるために」

問1 ご自身のことについて教えてください

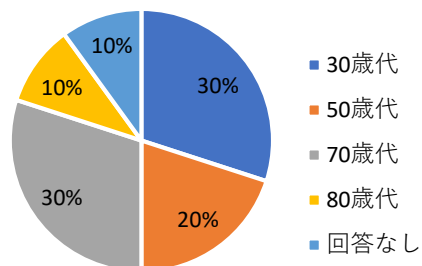
1. 性別

	n	%
男性	2	20%
女性	7	70%
回答なし	1	10%
合計	10	100%



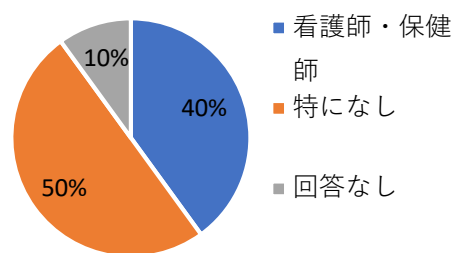
2. 年代

	n	%
30 歳代	3	30%
50 歳代	2	20%
70 歳代	3	30%
80 歳代	1	10%
回答なし	1	10%
合計	10	100%



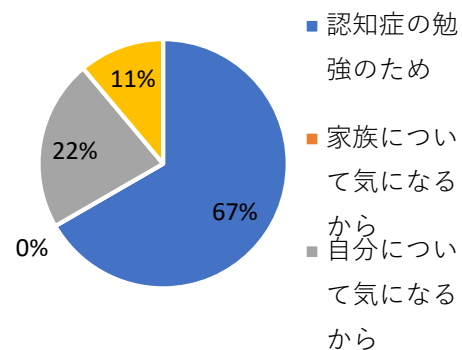
3. 職種

	n	%
看護師・保健師	4	40%
特になし	5	50%
回答なし	1	10%
合計	10	100%



問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

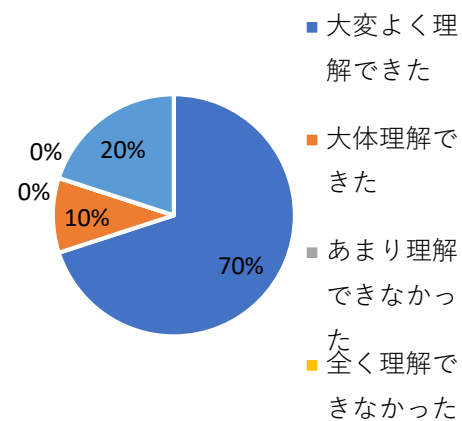
	n	%
認知症の勉強のため	6	67%
家族について気になるから	0	0%
自分について気になるから	2	22%
回答なし	1	11%
合計	9	100%



問3 講演について

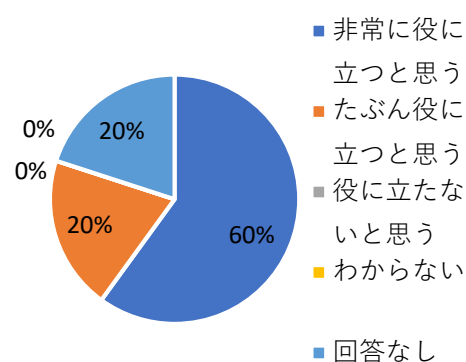
(1) 講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	7	70%
大体理解できた	1	10%
あまり理解できなかった	0	0%
全く理解できなかった	0	0%
回答なし	2	20%
合計	10	100%



(2) 講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	6	60%
たぶん役に立つと思う	2	20%
役に立たないと思う	0	0%
わからない	0	0%
回答なし	2	20%
合計	10	100%



具体的内容

- 実の父も記憶力の低下が見られて遠方に住んでいるので早期介入に必要性など改めて感じた。
- 終末期の具体的なことが理解出来ました。小笠原の現状に即したお話ありがとうございました。
- 認知症の進行・経過・本人と家族の不安、思い etc を改めて知ることが出来ました。もし自分が終末期になった時はどういう風に過ごしていきたいかちゃんと話し合っていく事が大事だなと改めて思いました。
- 認知症の見通し、単純にどうしたいか確認しておくことが大切だと感じた。
- 理解するより本日は不安増し少々気落ちしました
(保健師より補足：施設入所を考えており金額など具体的な話だったため)

問 4 ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

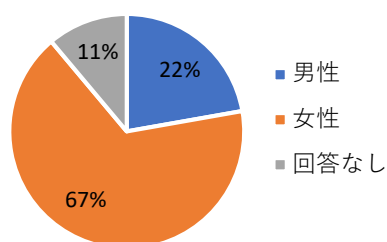
回答なし

3.2.5 研修⑤「高齢者の精神疾患について」

問 1 ご自身のことについて教えてください

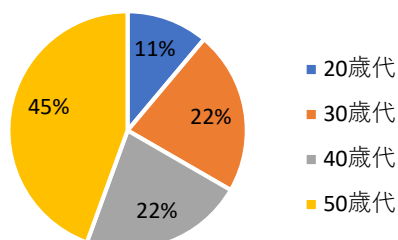
1. 性別

	n	%
男性	2	22%
女性	6	67%
回答なし	1	11%
合計	9	100%



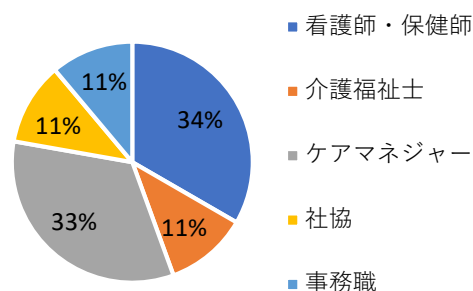
2. 年代

	n	%
20 歳代	1	11%
30 歳代	2	22%
40 歳代	2	22%
50 歳代	4	44%
合計	9	100%



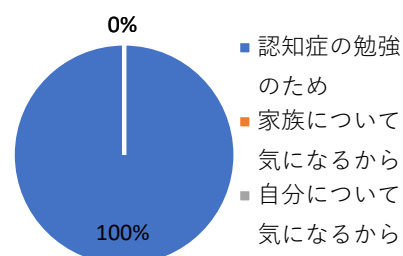
3. 職種

	n	%
看護師・保健師	3	33%
介護福祉士	1	11%
ケアマネジャー	3	33%
社会福祉協議会	1	11%
事務職	1	11%
合計	9	100%



問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

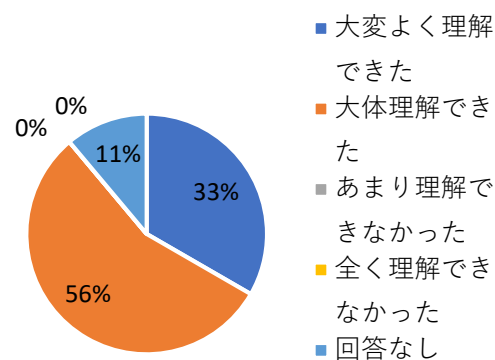
	n	%
認知症の勉強のため	9	100%
家族について気になるから	0	0%
自分について気になるから	0	0%
合計	9	100%



問3 講演について

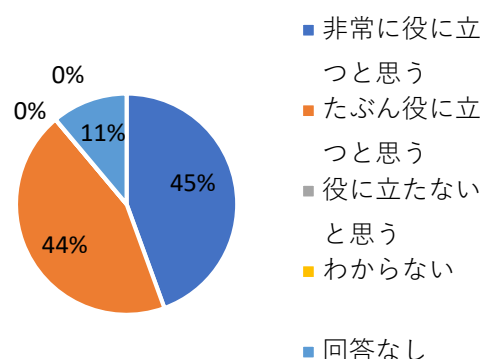
(1) 講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	3	33%
大体理解できた	5	56%
あまり理解できなかった	0	0%
全く理解できなかった	0	0%
回答なし	1	11%
合計	9	100%



(2)講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	4	44%
たぶん役に立つと思う	4	44%
役に立たないと思う	0	0%
わからない	0	0%
回答なし	1	11%
合計	9	100%



具体的内容

- 老人ホームで働いていますが周辺症状は十人十色で個人に合わせた対応を心がけていますが妄想の激しい方に少々手こづっています。職員によって対応が違うのも混乱させてしまう要素かと思っています。今回の話を持ち帰って待遇のスキルを全体で上げられたらと思います。
- 具体的な医療的な知識が分かりよかった。
- 精神疾患と認知症の違いを判断することは難しいということを理解して対応していきたい。診断前の関係性の構築を大切にしたい支援を心がけたい。
- せん妄の原因が脱水と知れて良かった。
- 島は元々、人との繋がりがあありますが孤立しないようにしたい。

問4 ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

- サービスの予定があり途中退席させて頂きました。最後まで聞く事が出来ずに残念です。
- ありがとうございます。
- 今後疾患のある人が増えていきそう、まずは寄り添う事かと思います。精神科との関わりがあることを他人に知られるのは嫌でしょうね。受診はハードルが高いと思いました。

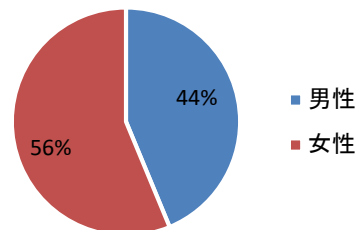
3.3 神津島村で実施した研修の質の評価

3.3.1 研修①「高齢者の精神疾患について」

問1 ご自身のことについて教えてください

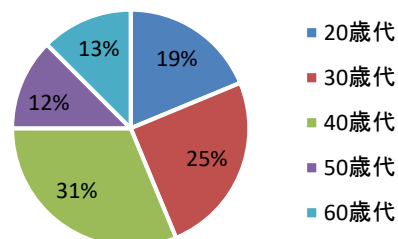
1. 性別

	n	%
男性	7	44%
女性	9	56%
合計	16	100%



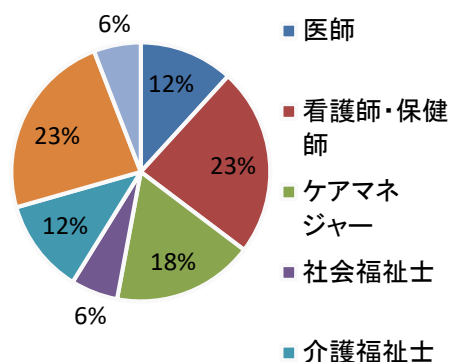
2. 年代

	n	%
20 歳代	3	18%
30 歳代	4	25%
40 歳代	5	31%
50 歳代	2	13%
60 歳代	2	13%
合計	16	100%



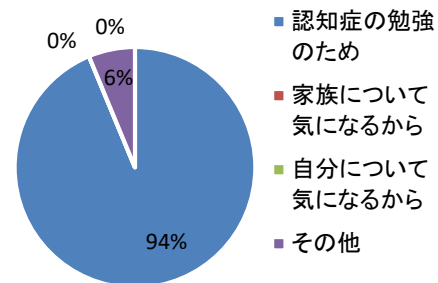
3. 職種

	n	%
医師	2	12%
看護師・保健師	4	24%
ケアマネジャー	3	18%
社会福祉士	1	6%
介護福祉士	2	12%
事務職	4	22%
その他	1	6%
合計	17	100%



問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

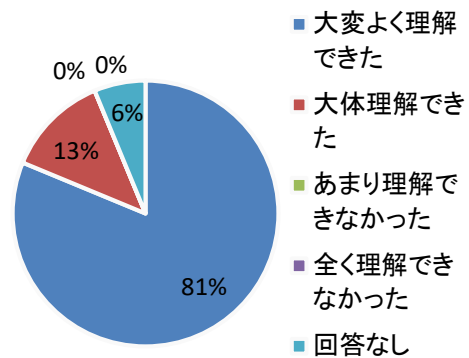
	n	%
認知症の勉強のため	15	94%
家族について気になるから	0	0%
自分について気になるから	0	0%
その他	1	6%
合計	16	100%



問3 講演について

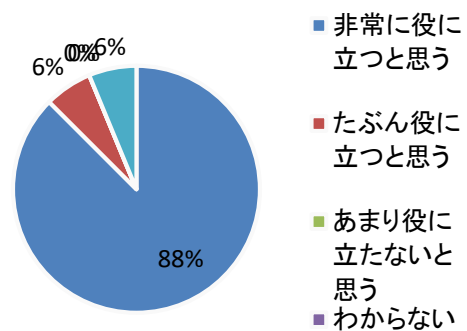
(1) 講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	13	81%
大体理解できた	2	13%
あまり理解できなかった	0	0%
全く理解できなかった	0	0%
回答なし	1	6%
合計	16	100%



(2) 講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	14	88%
たぶん役に立つと思う	1	6%
あまり役に立たないと思う	0	0%
わからない	0	0%
回答なし	1	6%
合計	16	100%



具体的内容

- 高齢者の精神疾患について不勉強な点が浮き彫りになりました。
- 神津島で現状は問題ないが将来どうしなければいけないという事を今後考えなければいけない
- 妄想がある人で生活に影響は出ていないがという人がいるのでその人の対応であったり老人のうつも多くなっていると感じるので孤立を防ぐように関わりをもてるようにしたいと思いました。
- 若い世代には伝わりにくかったり興味のない分野だが自分が知識を身に付けることでそれを周囲に伝えたり広める事ができる。特に若い世代には興味を持ってもらいたい。
- 内容もわかりやすく理解できました。（聞く側は自分の立ち位置でしっかり聞けたのでは）
- コメディカルでも使えるスクリーニング指標がとても参考になりました。
- 多職種と連携しながら ICF の視点で対象者を理解していくことが大切と思いました。
- 色々なパターンがあることを知りパッと決めつけず寄り添うことが必要であることを聞いて良かった。
- 難しい言葉の意味を知ることができた。
- 認知症と精神面の問題ありの方、精神薬をストップしたところ食欲も出て認知面を UP した。島では専門医がないので今回学ぶ事が出来て良かった。

問 4 ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

- またケース相談などさせて頂きましたら幸いです。よろしく願い申し上げます。本日は誠にありがとうございました。
- 精神障害の事についての知識が乏しかったため、本公演にて勉強することが出来非常に良かった。
- 神津島村では認知症に関して知識や興味のある方は一定数はいるが全く興味がない人、関わりがない人が今後自分の親、兄弟のために参加したいと思えるような講演会を開催しなければならぬと思う。
- 年に一回このような機会があるととても良いと思いました。
- 分かりやすい説明で大変勉強になりました。ありがとうございます。
- 専門的なお話が聞けて良かったですありがとうございます。
- とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

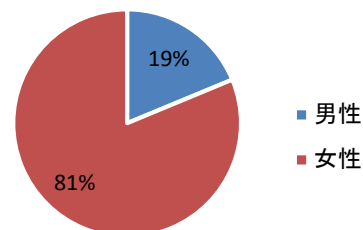
- 細かく良く説明があり良かったです。
- 地域の方(担う方と)一緒に学べたり意見を聞く事が出来非常に有意義でした。若者のアルコールも問題のようだと思います。
- 精神障害について自分にも当てはまるところがあり今後高齢になり自分のこととして学ぶことが出来ました。先生の説明がとても分かりやすかったです。

3.3.2 研修②「認知症予防と備え」

問1 ご自身のことについて教えてください

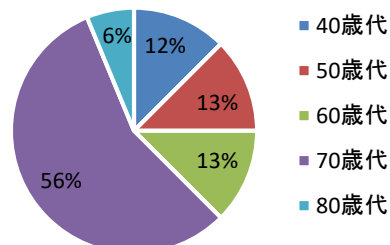
1. 性別

	n	%
男性	3	19%
女性	13	81%
合計	16	100%



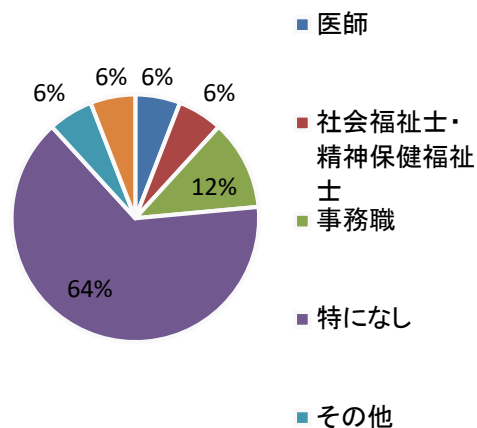
2. 年代

	n	%
40 歳代	2	13%
50 歳代	2	13%
60 歳代	2	13%
70 歳代	9	55%
80 歳代	1	6%
合計	16	100%



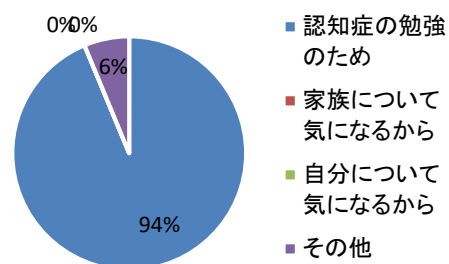
3. 職種

	n	%
医師	1	6%
社会福祉士・精神 保健福祉士	1	6%
事務職	2	12%
特になし	11	65%
その他	1	6%
回答なし	1	5%
合計	17	100%



問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

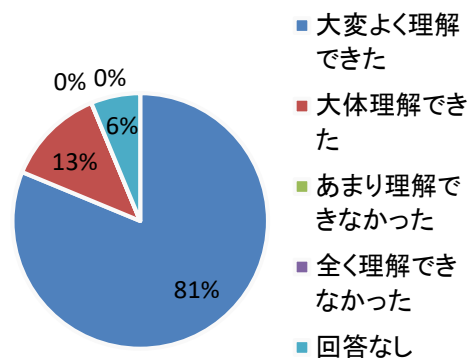
	n	%
認知症の勉強のため	15	94%
家族について気になるから	0	0%
自分について気になるから	0	0%
その他	1	6%
合計	16	100%



問3 講演について

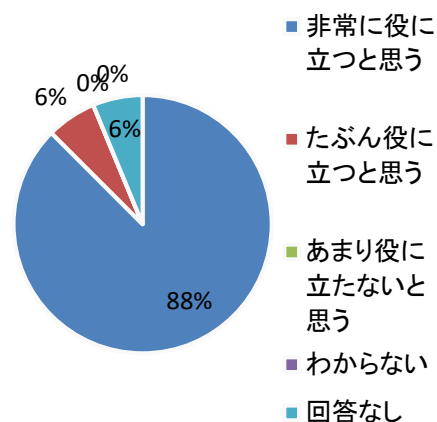
(1) 講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	13	81%
大体理解できた	2	13%
あまり理解できなかった	0	0%
全く理解できなかった	0	0%
回答なし	1	6%
合計	16	100%



(2)講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	14	88%
たぶん役に立つと思う	1	6%
あまり役に立たないと思う	0	0%
わからない	0	0%
回答なし	1	6%
合計	16	100%



具体的内容

- 認知症に備え治療すれば認知症は怖くないと思えた。
- エピソード記憶は初めて知りました。
- 住宅を高齢者用住宅に改築するのに少し役立ちそうです。
- パートナーが認知症になった時の対応の仕方を最後に少し教えてもらって良かったです。
- 要は“寄り添う”という事でしょうか
- 認知症の本人同士が出会うと元気になる。
- 認知症の人の立場になって医療・介護ばかりでなく地域ぐるみで考える。
- 認知症になったらと思うと不安だったが気持ちが少し楽になりました。
- 知らない事が多すぎた。

問4 ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

- 年に数回の講習会をして頂き住民に伝えていきたい。理解しやすく次回も受けたい。
- 認知症はよく聞けけれどこの様な講演会があると分かった気がする。
- 「ココから話そう会」いいですね。神津にももっと交流の場があるといいと思います(コミュニティー)

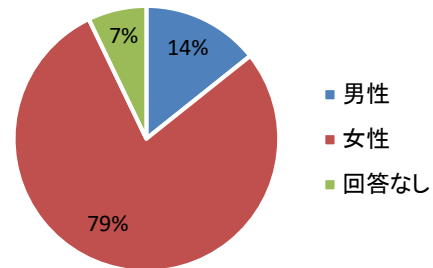
3.4 三宅村で実施した研修の質の評価

3.4.1 研修「知って安心認知症～家族が認知症になったら～」

問1 ご自身のことについて教えてください

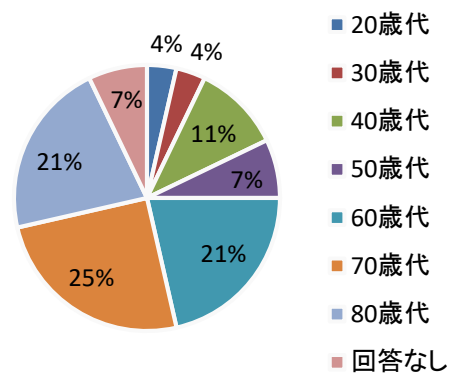
1. 性別

	n	%
男性	4	14%
女性	22	79%
回答なし	2	7%
合計	28	100%



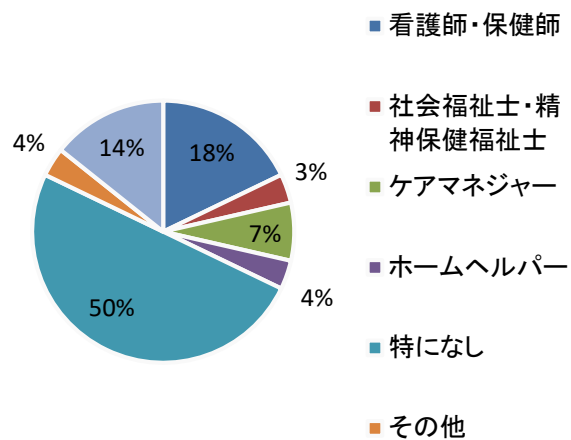
2. 年代

	n	%
20 歳代	1	4%
30 歳代	1	4%
40 歳代	3	11%
50 歳代	2	7%
60 歳代	6	21%
70 歳代	7	25%
80 歳代	6	21%
回答なし	2	7%
合計	28	100%



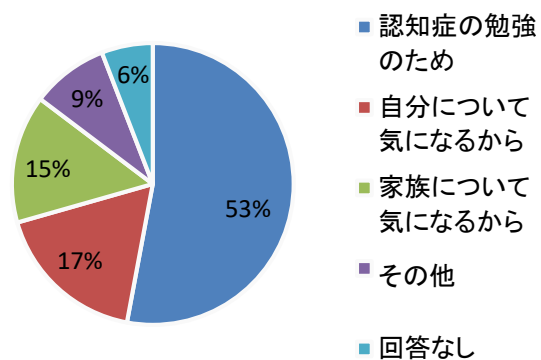
3. 職種

	n	%
看護師・保健師	5	18%
社会福祉士・精神保健福祉士	1	4%
ケアマネジャー	2	7%
ホームヘルパー	1	4%
特になし	14	50%
その他	1	4%
回答なし	4	14%
合計	28	100%



問2 今回ご参加いただいたきっかけについて教えてください

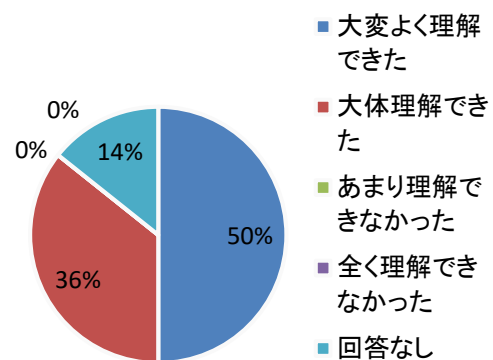
	n	%
認知症の勉強のため	18	53%
自分について気になるから	6	17%
家族について気になるから	5	15%
その他	3	9%
回答なし	2	6%
合計	34	100%



問3 講演について

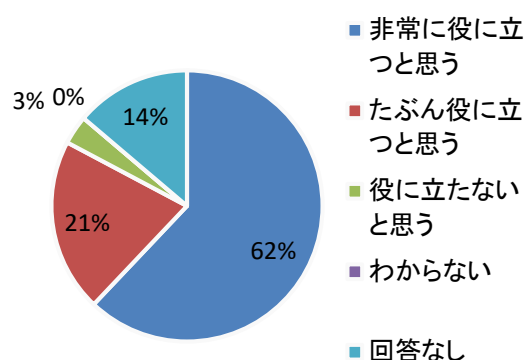
(1)講師の説明は理解できましたか？

	n	%
大変よく理解できた	14	50%
大体理解できた	10	36%
あまり理解できなかった	0	0%
全く理解できなかった	0	0%
回答なし	4	14%
合計	28	100%



(2)講演内容はこれからの生活や業務にお役に立てるものでしたか？

	n	%
非常に役に立つと思う	18	62%
たぶん役に立つと思う	6	21%
役に立たないと思う	1	3%
わからない	0	0%
回答なし	4	14%
合計	29	100%



具体的内容

- 親族に説明等できる
- ページ No.をつけてほしかった
- 現在認知症の進行している親をどう受け入れて行くのか考える機会になりました。いずれは我が身の事だとも考えてますので
- 基礎的な内容から具体的な内容まで学べることが出来て良かったです。病院での費用等、具体的な内容で参考になりました。
- 高齢者を支援する仕事なので非常に役立ちました(地域包括支援センター勤務)
- 基本的な事の復習になります。
- 改めて認知症について理解できた。
- わかりやすい、終末期や施設入所に関して細かい事を説明して頂きよかったかな！再確認費用の事も。
- 認知症予防について知ることが出来たので自分が認知症にならない様に生活習慣を見直すきっかけになった。家族に認知症がいるので早めに未来(終末期)について話し合っていきたい。
- 多くの方が研修される事を希望します。
- MCI から終末への流れが分かった事/何が準備できるのかがわかりました。発症しても遠慮しなくてもいいかな？と思いました。
- 81歳の父が認知症です。医師からは中等度と言われました。父が今後どうしたいのか私以外の家族の意見、方向性を考える事が重要だと気付きました。
- 自身の事をよく考えて進む様でしたら受診の方向も分かり大変有難い講義でした。
- 夫と二人暮らし 77 歳です。これからの事を予定できました。
- 具体的な事例を用いたり施設の現状等を教えて頂いたので分かりやすかった。

問 4 ご意見・ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

- ページ NO.を付けてほしかった。
- 昔の様な近所付き合いが減って情報が入りにくくなっています。次年度から民生委員として関わっていくので難しさを感じています。
- 午前中に家を空けて出かけるのは大変なので出来れば午後をお願いしたいと思います。
- あじさいのナースです。Zoom での講義をして頂き、交代制のため全員が見れる様にしたい。
- 人生の最後は認知症とは限らないと思いますが親の事や自分の事に置き換えてお話を聞かせて頂きました。今後の支援に役立てたいと思いますありがとうございました。
- 認知症の専門医として最新の情報を教えて頂けるとなおよかったと思います。
- 受診し長期入院、短期入院でどういう事をするのか聞いてみたかったので本日午後や明日の講演会で伺うつもりですのでよろしくお願いいたします。
- 多くの人に聞いて頂きたい講座です。数回同じ研修を無理なような老人クラブとかで行って頂きたい(保健師さんなどで)
- ありがとうございましたご活躍下さい。
- 講習会が再開できたこと感謝です。次年度も是非。1 回理解感しても再インプットが必要です。
- 本日は誠にありがとうございました心構えが出来た様に思います。色々な面で。
- 仲介業者（相談料）のかかる所もある。

4 島しょ地域認知症医療サポート事業の実施

4.1 目的

島しょ地域の認知症医療の課題として、専門職の流動性の高さ、対応ケースの少なさに起因する対応経験を積むことの難しさ、認知症に専門性が高い専門職の確保の困難さ等がある。

現在、東京都の二次保健医療圏のなかで唯一島しょ二次保健医療圏には認知症疾患医療センターは設置されていない。また、認知症初期集中支援チームチームに関しては、設置が進められているが、設置要件である認知症サポート医の安定的な確保が難しい。

このような状況から、平成 30 年に、東京都の島しょ地域における認知症医療の支援体制の構築を支援する事業が開始された。この事業は、東京都健康長寿医療センターが受託して、島しょ地域の医療機関や町村に設置された認知症初期集中支援チーム等の認知症支援の関係者に対して認知症の診断や治療等に係る相談支援と、認知症初期集中支援チームの活動支援を行う、「島しょ地域認知症医療サポート事業」を開始した。令和元年（平成 31 年）からは、檜原村も対象地域となった。

4.2 認知症の診断および治療等に関わる相談支援

4.2.1 事業概要

「認知症の診断および治療等に係る相談支援」では、東京都健康長寿医療センターの認知症疾患医療センター認知症専門医はじめ、精神保健福祉士（PSW）や公認心理師からなる多職種チームが、町村の医療従事者から寄せられる認知症の診断や治療等に関する相談に応需し、多職種による専門的見地からコンサルテーションと、必要に応じて適切な医療機関等の紹介を行う。

4.2.2 事業の実施

認知症の診断及び治療等に係る相談支援を利用した町村は 2 か所、相談事例の件数は 4 件であった。電話で村の相談者から連絡があり、当センターの PSW が相談に応需した。概要は以下の表のとおりである。

表 相談支援の概要

	相談者	相談内容	結果
小笠原村	診療所	治療に関する相談	薬物療法やケアのアドバイスを行った
利島村	診療所	治療と入院に関する相談	センターへの入院、自宅退院となった
利島村	診療所	治療と入院に関する相談	センターへの入院、転院となった
小笠原村	役場	治療と入院に関する相談	センターへの入院、特別養護老人ホームに入所となった

4.3 認知症初期集中支援チームの活動支援

4.3.1 事業概要

「認知症初期集中支援チームの活動支援」では、町村の認知症初期集中支援チームからの依頼に基づき、東京都健康長寿医療センター認知症疾患医療センターに所属する認知症専門医とP S W、臨床心理士からなる多職種チームが、認知症初期集中支援チーム員会議に参加した。会議では、事例検討等を通じてスーパーバイズとディスカッションを行った。

4.3.2 事業の実施

認知症初期集中支援チームの活動支援の概要は以下の表のとおりである。

表 認知症初期集中支援チーム支援の概要

町村名	開催日	所要時間	島の参加者・所属・職種	センターの参加職種	ケース数	相談の概要
八丈町	2022/06/10	60 分	役場職員、保健師、ケアマネジャー	精神保健福祉士、公認心理師		アルコール患者、認知症の人の運転についての相談。
八丈町	2022/8/30	60 分	役場職員、保健師、ケアマネジャー	医師、精神保健福祉士		入院中にせん妄になる方達の日中ちよとした隙間時間にできる事などの相談。
神津島村	2022/09/26	90 分	役場職員、診療所医師・看護師、保健センター理学療法士	医師、精神保健福祉士、公認心理師	2 件	不眠と幻視がある高齢女性の事例と、ベンゾジアゼピンおよびアルコールの依存がある高齢男性の事例。 今後の治療方針についての相談。
檜原村	2022/10/12	30 分	役場職員、病院医師・精神保健福祉士	医師、精神保健福祉士、公認心理師		認知症支援に関する現況と課題の報告
青ヶ島村	2023/01/11	60 分	役場職員、診療所医師、高齢者福祉関係者	医師、精神保健福祉士、公認心理師	1 件	ADL は保たれているが認知症が疑われる独居高齢者の今後の支援に関する相談。
青ヶ島村・八丈町	2023/02/16	60 分	役場職員、診療所医師、保健師、高齢者福祉関係者、八丈支庁ケースワーカー	医師、精神保健福祉士、公認心理師	1 件	生活保護を受給しており、認知症が疑われる独居高齢者の今後の支援に関する相談。
大島町	2023/01/16	60 分	役場職員、包括職員、社会福祉協議会ケアマネジャー(CM)	医師、精神保健福祉士、公認心理師		本事業の活用方法に関する意見交換。これまで自立していたが認知機能低下が疑われるようになった高齢者への支援の方針についての相談。
御蔵島村	2023/01/16	60 分	役場職員、診療所医師	医師、精神保健福祉士、公認心理師	1 件	御蔵島の高齢者支援に関する現況報告。スタッフにセクハラ問題のある高齢男性への見立てと対応、介護者への関わりについての相談。

利島村	2023/01/18	60 分	役場職員、社会福祉協議会 CM、診療所医師・看護師	医師、精神保健福祉士、公認 心理師	2 件	利島村の認知症支援の現況報告と、今年度利島村から当センターに入院した患者 2 名の退院後の経過の共有。
新島村	2023/2/27	60 分	役場職員	医師、精神保健福祉士、公認 心理師		本事業の活用方法に関する意見交換と、新島村の認知症支援の現況報告。

5 考察

1. はじめに

今年度の島しょ等地域認知症支援事業における訪問対象は、八丈町、小笠原村、神津島村であった。また、三宅村の認知症対策事業の一環として開催された一般住民向け研修とミーティングに、東京都健康長寿医療センター認知症支援推進センターおよび認知症疾患医療センターの職員を派遣した。

本項では主として、「関係者ミーティング」で議論された内容から、認知症支援の課題や各地域の実践について考察する。

2. 新型コロナウイルス感染症流行の影響

前年度と同様に、新型コロナウイルス感染症の影響は、認知症支援事業や介護予防事業などに影響を及ぼしていることが各地域の関係者から語られた。

感染拡大を考慮して、認知症支援関係者が直接集まる機会が減り、関係者の連携に影響を及ぼしていた（八丈町）。また、サロンやカフェの中止（三宅村）によって認知症の方の集いの場がなくなったこと、デイサービスの利用制限によって対人交流が減ったこと（小笠原村）、それらの影響による高齢者の身体機能の低下や家族介護者の負担の増加を懸念する声が聞かれた。

一方で、感染対策を講じながら、介護予防体操教室や認知症カフェ、サロンを継続して（小笠原村）、コミュニケーションを求めている人々で賑わっているという報告もあった。議論を交わす中で、デイサービスの通所や、サロンやカフェへの参加が、高齢者の身体機能および対人交流を維持するほか、家族介護者の負担軽減に貢献していることが再確認された。

特別養護老人ホームでは面会制限に加えて、一時外泊の停止、デイサービスの入浴サービスを停止した地域もあった（神津島村）。入浴サービスを利用できなくなったことを受け、介護保険外の入浴サービスを希望する高齢者が増えたという声も聞かれた。新型コロナウイルス感染症の流行は、さらに、看取り文化にも影響を与えていた。神津島では高齢者を自宅で看取る文化が残っており、高い自宅看取り率を誇る一方で、自宅外での看取りは近所の目が気になるという話題がこれまでの関係者ミーティングで聞かれていた。しかし、高齢者施設の面会制限や一時外泊停止を受け、「無理に自宅に連れて帰らなくてもよ

いのではないか」「自宅で看取れなくても仕方が無い」という雰囲気が出されるようになり、自宅外での看取りが増えたという報告があった。特に、特別養護老人ホームでの看取りが増えているという点について、今後このようなケースが増えた場合の対応を懸念する意見もあった。特別養護老人ホームでどこまで看取りができるか、どこまで医療を行うか等、課題も多い。しかし、自宅でなくとも住み慣れたコミュニティのなかにある施設で最期を実現するために、施設職員が、利用者やその家族の抱える背景を汲みながら臨機応変に対応している様子うかがえた。

3. キーパーソンが不在である独居の認知症高齢者の支援について

今回の関係者ミーティングから、キーパーソンが島内にいない独居の認知症高齢者の支援が課題として浮かび上がった（八丈町・小笠原村・神津島村）。島しょ等地域の人材と社会資源の不足はこれまでも指摘されてきた。しかし、いずれの地域も島の強みである「見守り合う文化」を活かし、コミュニティ内の連携の強化を図って補っていた。特に神津島では、各支援関係者がひとりひとりの高齢者をよく理解し、関係者間で切れ目のない支援に繋がっていることがうかがえた。しかし、人材と社会資源の不足により、現状でもそのような対応は限界に近い状態であり、さらに今後、インフォーマルな見守りネットワークに乏しい独居の認知症高齢者が増加した場合に、現在の体制では対応しきれないという深刻な状況であることが報告された。島内に施設等が少ないため、そのような状況にあって、社会的入院を繰り返す患者が多い（八丈町）という課題も挙げられた。

しかし、支援ニーズと提供できる支援のアンバランスが表面化しつつある状況下にあっても、島民が最期まで島で暮らし続けるためにどのような支援が必要なのか、活発な議論が行われ、在宅サービスの拡充や、前期高齢者を働き手に回して人材獲得を図るなど、具体的な対策案があがる地域もあった（神津島村）。さらに、認知症が疑われ在宅生活の継続が困難と考えられるが、ADL が保たれており介護認定が低いために島内の特別養護老人ホームに入所できない高齢者に関しては、内地の施設に紹介するルートが作られるとよいのではないかという意見や、介護保険外で支援する体制を望む意見もあった（神津島村）。

小笠原村では、コミュニティが小さく住民同士の関係が近いことから、コミュニティ内の住民の認知症に早期に気づくことは可能だが、具体的な支援に繋がるまでには時間を要することが課題としてあげられた。その一因として、住民が支援者に相談してもその先の支援に見通しが持てないために、困った状況が生じるまで相談しないのではないかという指摘があった。当センターからは、既存の制度やサービスを一度整理し、認知症ケア

パスのような、住民にわかりやすい形で提示できる工夫を提案した。併せて、人材が定着せず事例が次の担当者に引き継がれないことも課題としてあがり（小笠原村）、担当者の取り組みを引き継ぐシステムを当該町村のみで構築することが難しい場合、本事業を活用することも一案であると提案した。どの島も現状に危機感を持っており、今後の体制作りを積極的に検討する姿勢がみられた。

4. 地域の認知症対応力向上について

地域住民が認知症についての理解を深めることで、地域の認知症対応力を向上させたいという意見も出された（八丈町）。病院と行政が連携し、認知症の啓発活動を積極的に行い、地域住民の認知症への理解を深めることで、認知症の方がより暮らしやすくなるのではないかと期待する声があった。離島の小さなコミュニティに生活する住民同士の近い関係性があるからこそ、偏見を恐れて診断や支援を拒むことも、反対に、従来からよく知る人が認知症になった場合を想定した本人の視点に立った支援が真剣に議論されているのではないかと考えらえる。離島の小さなコミュニティのなかにある住民同士の密な関係は、排除にも包摂にも働き得る力である。つまり、認知症への偏見が大きければ、密な関係は診断を受けることや支援への消極的態度につながり得る。しかし認知症への理解が深まれば、密な関係は、認知症になっても本人らしく生きることの大きな支援になり得るだろう。

5. おわりに

今後、日本全土において人口減少と高齢化はますます進展することが予想され、資源の不足はより一層深刻な課題になると考えられる。現状の体制の維持にも限界があり、とくに、今後増加が見込まれる、身寄りの有無が不明の、あるいは島内にキーパーソンがいない独居の認知症高齢者への対応については、どの島も危機感を持っていた。

現時点で、人材と社会資源の不足は、いずれの島でも指摘されている課題であった。しかしコミュニティのなかにある「見守り合う文化」を活かし、専門職同士の連携を図りこれらの不足を補ったり、住民の啓発活動に力を入れ、認知症とともに生きる方がよりよく暮らせるよう地域の対応力を培っていくことの必要性に関する議論もなされた。

今年度、認知症とともに生きる方の尊厳を守り、住み慣れたコミュニティで最期まで暮らすために、どのような取り組みが必要なのか、どのような取り組みができるかという

ことがどの島でも議題に挙がった。引き続き、各島の認知症支援関係者が集まり、それぞれの島の実情にあった支援モデルを確立していく作業が重要と考えられる。

島しょ地域の認知症対応力向上に向けた支援事業 令和4年度事業実施報告書

発行

東京都健康長寿医療センター 認知症支援推進センター

執筆

東京都健康長寿医療センター 認知症支援推進センター 高岡陽子

令和5年3月